



八重洲ブックセンター創業祭2021
記念フェア

43名の著者による 「未来へつなげたい本」

リーフレット

期間 2021.09.18~10.31 (日)

場所 八重洲ブックセンター本店1階 特設コーナー

43名の著者による 「未来へつなげたい本」

不安定な時代だからこそ、ちょっと立ち止まり、振り返る。
過去・現在の中に未来へのヒントがあるはずです。

未来につなげたい「何か」について気づかせてくれるような、そんな書籍を、八重洲ブックセンターに縁のある著者の皆様にお選び頂きました。

文学、科学、人文、ビジネスとジャンルは多岐にわたっています。
それぞれの選者の「未来につなげたい本」、どうぞ御覧ください。

ご参加いただきました選者の皆様 (50音順)

青山美智子 : 作家	23	佐久間裕美子 : 文筆家
あさのますみ・畑健二郎 : あさのますみ/作家・声優、畑健二郎/漫画家	24	末永幸歩 : 美術教師/アーティスト
天祐涼 : 作家	25	全卓樹 : 高知工科大学理論物理学教授
新井紀子 : 国立情報学研究所 社会共有知研究センターセンター長	26	田丸雅智 : 作家
安藤広大 : 株式会社筑学 代表取締役社長	27	寺澤伸洋 : 会社員・作家
池上英洋 : 東京造形大学教授	28	読書猿 : ブロガー・会社員
いしかわこうじ : 絵本作家	29	ドミニク・チェン : 早稲田大学文化構想学部准教授
石戸諭 : ノンフィクションライター	30	七尾与史 : 作家
稲垣栄洋 : 静岡大学農学部教授	31	名和高司 : 一橋大学ビジネススクール客員教授
稲葉俊郎 : 軽井沢病院総合診療科医長	32	西岡 亮成 : 現役東大生
猪瀬直樹 : 作家	33	額賀 滯 : 作家
榎本博明 : MP 人間科学研究所代表	34	はらだみずき : 作家
岡本純子 : 株式会社グローコム 代表取締役社長	35	原ゆたか・原京子 : 原ゆたか・原京子/児童書作家。
沖山誠・近藤哲朗 : 沖山誠/「図解総研」理事、近藤哲朗/株式会社そろそろ代表取締役	36	藤本 敦也 : 「SF思考」編著者
落合 陽一 : 筑波大学准教授	37	細谷 功 : ビジネスコンサルタント・著述家
加来 耕三 : 歴史家・作家	38	三谷 宏治 : 著述家
加藤 文元 : 東京工業大学理学院数学系教授	39	宮本 道人 : 科学文化作家、応用文学者
鎌田 浩毅 : 京都大学名誉教授	40	守屋 淳 : 作家
亀山 郁夫 : 名古屋外国語大学学長	41	谷津 矢車 : 作家
岸本 佐知子 : 翻訳家	42	矢部 太郎 : 芸人・マンガ家
楠木 建 : 一橋ビジネススクール教授	43	吉田 篤弘 : 作家
小手鞠 るい : 作家		

選者紹介

青山 美智子 (あおやま みちこ)

1970年生まれ、愛知県出身。横浜市在住。大学卒業後、シドニーの日系新聞社で記者として勤務。2年間のオーストラリア生活のち上京。出版社で雑誌編集者を経て執筆活動に入る。第28回パレットノベル大賞佳作受賞。デビュー作『木曜日にはココアを』が第1回宮崎本大賞を受賞。『お探しばは図書室まで』が2021年本屋大賞2位を獲得。他の著書に「猫のお告げは樹の下で」「鎌倉うずまき案内所」「月曜日の抹茶カフェ」など。

選者紹介

天柁 涼 (あまね りょう)

1978年生まれ。『キョウカンカク』で第43回メフィスト賞を受賞してデビュー。『葬式組曲』が「本格ミステリ・ベスト10」2013年版で第7位、第13回本格ミステリ大賞の候補に。『あの子の殺人計画』が「ミステリが読みたい！ ベスト10」2021年版で第7位など、年末のミステリーランキングに続々ランクイン、高い評価を受ける。ほかの著作に『希望が死んだ夜』『彼女が花を咲かすとき』『Ghostほくの初恋が消えるまで』や『境内ではお静かに』シリーズなど多数。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	青い鳥の本	石井ゆかり/文 梶野沙羅/絵	パイインター ナショナル	小説でもなく詩集でもなく、綴られているのはメッセージ。石井ゆかりさんの優しく力強い言葉と梶野沙羅さんの美しい絵が贅沢につまっている宝石箱のような本。ぱっとページを開いては、きらきらした文字の配列を取り出し眺めて味わう。ゆかりさんがくれるのは答えではなく、それを自分がどう思うかというお題だ。
2	MINIATURE LIFE Conceptual art of MINIATURE CALENDAR 2	MINIATURE CALENDAR/写真・編集・デザイン	水曜社	パンが雲に、マッチ棒がマイクに、歯ブラシがシャワーに……。身の回りのありふれた雑貨や食べ物が、田中さんの「見立て」という「手」にかかるとまったく違った姿に早変わり。作品に添えられたタイトルもシャレが利いていて思わず頬がゆるむ。本から目を離したとき、見慣れた景色が新鮮に映っていく魔法の書。
3	ふたりはいっしょ	アーノルド・ローベル/作 三木卓/訳	文化出版局	がまくんとかえるくんシリーズはどれも可愛くてユーモラスで、そしてちょっぴり、しみりした気持ちになる。世の中には怖いことがいっぱいあって、思うようにはいかなくて、己の弱さや傲慢さから逃れることはできない。そんなとき、こんな友達がいってくれたらいいな。本作に収録の「がまくんのゆめ」は最高に好きな一編。
4	ふしぎなえ	安野光雅/さく	福音館書店	立っていたはずの床は壁？ 階段で上ったつもりが下にいる？ 見れば見るほど見えてしまう、タイトルの通り不思議な絵たち。私たちの見ているものは、どこまでが思い込みなのだろう？ 一文字の言葉もなく絵だけだからこそ饒舌で、がちがちになった固定概念をやわらかくしてくれる。
5	お探しばは図書室まで	青山美智子/著	ポプラ社	町の公共施設の中にある小さな図書室。一風変わった司書さんがレファレンスしてくれるのは、予想外の選書と羊毛フェルトの「付録」。それらを手掛かりに、悩める5人の老若男女がそれぞれの探しばを見つけていく連作短編集。言葉はすべて、発する側ではなく受ける側のもの。そんなことを考えながら書きました。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	希望が死んだ夜に	天柁涼/著	文藝春秋	未来のため克服すべき貧困問題。この拙著は、中でも「子どもの貧困」に焦点を当てたミステリー。現代の日本では、飢死するほど追い詰められる子どもは少数かもしれない(いないとは言っていない)。が、お金がないせいで当たり前の生活を送れない子どもが潜在している。願わくば、早く「時代遅れ」になってほしい一冊。
2	Blue	葉真中頭/著	光文社	未来に向かうには、平成という過去を直視しておきたい。本書の主人公は、平成最初の日に生まれ、最後の日に死んだ男ブルー。彼が抱いた怒りや絶望、関与した凄惨な事件をたどることで、平成の流行や社会問題、空気感を振り返ることができる上に、ミステリーとしてもおもしろい魔法のような一冊。分厚いが一気読み必至!
3	令和元年のテロリズム	磯部涼/著 山谷佑介/写真	新潮社	川崎殺傷事件、元農林水産省事務次官長男殺害事件、京都アニメーション放火殺傷事件。三つの事件は、令和幕開けの年に起こった。無論それは偶然にすぎないが、「平成の間、先送りしてきた諸問題が噴出しつつあるのでは？」という懸念を突きつけてくるルポルタージュ。遠くない未来を変えるため、広く読まれてほしい。
4	コロナと生きる	内田樹/著 岩田健太郎/著	朝日新聞出版	我々の未来は、当面はコロナと共にありそう。その未来に向けてどうしたらいいのか、社会の危機はどこにあるのかなどを、一線で活躍する思想家と感染症学者が語り合った対談集。対談が行われたのは昨年なので情勢は若干変わっているものの、本書の根底に流れる思想はコロナ社会を生き抜く一助にしたい。
5	岩田さん 岩田聡はこんなことを話していた。	岩田聡/(述) ほぼ日刊イトイ新聞/編 糸井重里/監修	ほぼ日	ニンテンドースイッチ開発にも携わった、任天堂の元社長・岩田聡氏。55歳の若さで亡くなった氏が残した言葉をまとめた一冊。氏をよく知る糸井重里氏、宮本茂氏のインタビューも収録されている。人が喜ぶのがうれしくて仕事をしていったという岩田氏の考えは、ビジネスはもちろん、日常を生きるヒントにもなる

選者紹介

あさの ますみ

秋田県生まれ。

はじめて書いた絵本『ちいさなボタン、プッチ』が、小学館主催第13回おひさま大賞の童話部門最優秀賞を受賞。それをきっかけに創作をはじめ。近著に『逝ってしまった君へ』(小学館)、『アニマルバスシリーズ』(ポプラ社)、『ねがいごと』(学研)、『まめざらちゃん』(白泉社)など。また、浅野真澄名義で声優としても活躍、多数の出演作をもつ。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	Sunny 1~6	松本大洋/著	小学館	何度読んでも圧倒され、言葉が出なくなる作品。私たちが感じる感情のほとんどは、実は名前がつけられない。感情とはそれほど繊細で複雑で優く、輪郭が曖昧なものだと思うのです。この作品には、そういう感情がぎゅっと詰まっています。名前がつけられないまま忘れてしまったかつての気持ちが、苦しいくらい鮮やかに蘇るのです。
2	おふとんのくにのこびとたち	おちのりこ/さく くねいく/え	偕成社	はじめて読んだとき、子どもの頃に感じていた幸福感が体中に広がりました。存在をまるごと肯定されているような、世界から受け入れられているような気持ち。大人になった今でも、熱を出すたびついに手に取ってしまいます。この作品からあふれ出す優しさが、熱の辛ささえ和らげてくれるから不思議です。
3	あなたを選んでくれるもの	ミランダ・ジュライ/ 著 岸本佐知子/訳	新潮社	ここではないどこか、目の前の人じゃない誰かを求めてしまうこと、ありませんか。特別ななにかは、遠くにしか存在しないとってしまうこと、ありませんか。そんなときはぜひ、このノンフィクションを。唯一無二のドラマは私たちのすぐ隣にあると、きっと気づかせてくれるはずです。
4	ダカフェ日記	森友治/撮影・文	ホーム社	お腹を抱えて笑うよりも、クスッと笑う回数の方が、人生ではきっと多い。体が震えるほどの幸せよりも、ちょっといいな、くらの気持ちのくり返しが、私たちの毎日を作っている。つい忘れがちなささやかな非日常を切り取った写真が、いつのまにかじんわり心を温めてくれる、そんな一冊です。
5	逝ってしまった君へ	あさのますみ/著	小学館	自ら逝ってしまった友人に宛てて、長い手紙を書きました。あのときの喪失感も悲しみも、私は何を感じどう考えたかも、すべてを包み隠さず書きました。この一冊が、同じような痛みや苦しみを抱える人の心に、どうか小さな明かりを灯してくれますように。心からそう願っています。

選者紹介

畑 健二郎 (はた けんじろう)

10月19日生まれ。A型。まんがが賞の受賞歴一切なしにして、超(スーパー)増刊で『海の勇者ライフセイバーズ』を連載。『ハヤテのごとく!』で本誌初連載を果たす。2004~2017年 週刊少年サンデーにて『ハヤテのごとく!』を連載。2018年12号より週刊少年サンデーにて『トニカクワイイ』を連載!

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	かいぶつになっちゃった 新装版	木村泰子/作・絵	ポプラ社	絵本です。しかし可愛らしい話ではありません。幼少期の自分の人格形成に大きな影響を与えた一冊。生きるために目を凝らさなくてはいけない真実は何か、正しさの向こう側に何かあるのかを教えてくれる絵本。未来を生きるために必要な根源的な教訓が詰まった作品です。
2	まんが道 1~14	藤子不二雄A/著	中央公論新社	僕が説明するまでもない漫画家漫画の名作。藤子不二雄先生の半分自伝のような作品なので時代としては戦後間もない1950年代。漫画家を目指し、漫画と共に駆け抜ける主人公二人。たとえ時代は変わっても、夢に燃え、才能と努力の狭間で戦う若者の生き様は、今も昔も変わらないということを見せてくれる漫画です。
3	漂流教室 1~6	椋岡かずお/著	小学館	言わずと知れた名作中の名作。ホラー漫画の金字塔。とはいえタイトルは知ってても実際に読んだことはないという方もいるのではないのでしょうか?驚きなのはこの漫画が約50年前、1972年に描かれたという事実。しかしそこには決して色褪せることのない『恐怖に打ち勝つ勇氣』と『絶望を乗り越える友情』が描かれている。
4	マンガ日本の歴史1-17	石ノ森章太郎/著	中央公論新社	学習漫画と思われがちだがそうではない。描かれているのは、その時代に生きた人々の苦悩と戦いの歴史。毎巻その時代に相応しい主人公を定め、その人物が何を考えどう生きたのかを克明に描き切る、まさに大河ドラマ。この過去の先に自分がある。そのことを知れば未来へつなぐべきものは何か知ることができるともかもしれない。
5	トニカクワイイ FLY ME T O THE MOON 1-17	畑健二郎/著	小学館	この選書をして気づいたのは『結局のところ自分は七転八倒する人の姿が描きたかったのだ』ということです。ささやかな願い、愚かしい悩み、絵本であれ人の歴史であれ、そういうものを捨てられず懸命に生きる姿に自分は心惹かれるのだと。だからこそ自分も、そういうものを描きたいのである。なので、これはそういう作品です。

選者紹介

新井 紀子(あらい のりこ)

国立情報学研究所 社会共有知研究センター センター長・教授 一般社団法人 教育のための科学研究所代表理事・所長

東京都出身。一橋大学法学部、米イリノイ大学数学科卒業。イリノイ大院を経て、東京工業大学博士(理学)。専門は数理論理学。2011年から人工知能(AI)プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」を主導。2016年からは読解力を診断する「リーディングスキルテスト」を開発。研究者情報システムresearchmapの研究開発も担う。『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』、『AIに負けない子どもを育てる』など著書多数。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	変わる家族変わる食卓 真実に破壊されるマーケティング常識	岩村暢子/著	中央公論新社	人様の家の普段の食卓を覗き見る機会など、ほとんどないだろう。だから自分の家の食卓が「ふつう」なのかどうか、実は誰もわからない。その点で食卓と読解力には似たところがある。冷静といえるほどの徹底した調査で「家族と食卓」の変容を白日の下に明らかにした衝撃の書。
2	夏物語	川上未映子/著	文藝春秋	芥川賞選考で「私はまったく認めなかった」「乳房のメタファとしての意味が伝わってこない」と石原慎太郎に言われ、彼および彼の時代の「読解の限界」を時代に刻んだ川上文学。今、アメリカでもヨーロッパでも盛んに翻訳され高く評価されている。快哉。
3	ヒナギクのお茶の場合/海に落とした名前	多和田葉子/〔著〕	講談社	「この人がいてくれてよかった」と思える同世代人を一人挙げよ、と言われたら、迷いなく多和田葉子を選ぶ。孤高なのに開かれている彼女の作品群を同時代人として読むことで、希望を持つことができた女性は少なくないだろう。未読の方には、ぜひこの作品集から、多和田ワールドの魅力に触れてほしい。
4	それでも、日本人は「戦争」を選んだ	加藤陽子/著	新潮社	歴史は必然ではない。実は筋書きを変える「チャンス」は何度もある。国家の場合、そのチャンスを活かせるか否かで、一億人以上の運命が左右される。この本を通じて、私たちは決断を下す当事者の立場に自然と立つことになる。あなたはそのとき、どの道を選ぶだろう。選べるだろう。
5	AI vs. 教科書が読めない子どもたち	新井紀子/著	東洋経済新報社	AIはコンピュータ上で動くソフトウェアだ。AI技術は、膨大なデータ上の計算によって「意味理解」を近似しようとする試みだ。だが、日々の仕事や学習で、「意味理解」を端折って機械的処理に向かうとき、人間はAIに「似て」くる。AIに代替されず、人間らしく21世紀を生き抜くには何が必要なのか、これからも考えていきたい。

選者紹介

安藤 広大(あんどう こうだい)

株式会社識学 代表取締役社長。

1979年、大阪府生まれ。早稲田大学卒業後、NTTドコモなどを経て、2013年に「識学」という考え方に出会い独立。識学講師として、数々の企業の業績アップに貢献。2015年、株式会社識学を設立。人と会社を成長させるマネジメント方法として、口コミで広がる。2019年、創業からわずか3年11ヶ月でマザーズ上場を果たす。2021年8月現在で約2000社以上の導入実績があり、注目を集めている。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	江戸を造った男	伊東潤/著	朝日新聞出版	自分の周りの人に貢献することだけを考えて商売をすると、その範囲も徐々に大きくなり、結果的に自分も裕福になる。まずは、周囲の人に有益性を与えるのかを考えて事業をすること。その結果として多くの人を幸せにできるということを、本書を通じて再認識できる。経営の基本に立ち返ることができる1冊。
2	ザ・ゴール 企業の究極の目的とは何か	エリヤフ・ゴールドラット/著 三本木亮/訳	ダイヤモンド社	うまくいかないとき、つい人は精神論に走ってしまふ。ガムシャラに頑張れば突破口が開けると考えてしまふ。しかし、正しい努力と間違えた努力がある。努力の仕方を間違えると、すべてがムダに終わる。そのことを本書で学ぶことができ、仕組みの側に問題がないかどうかを常に気づかせてくれる。
3	リーダーの仮面 「いちプレーヤー」から「マネジャー」に頭を切り替える思考法	安藤広大/著	ダイヤモンド社	組織のリーダーに求められるのは、部下に「生き抜く力」を身につけさせることができるかどうかだ。そのためには、「優しいリーダー」であってはいけない。「仮面」をかぶり、役割として部下と接することも大切になってくる。その方法を具体的に書いた本書を、世の中の全リーダーに読んでほしい。
4	伸びる会社は「これ」をやらない!	安藤広大/著	すばる舎	社長が、社員のため、会社のために「良かれ」と思ってやっていることが、会社を悪い方向に導いてしまっている。そんな具体例を豊富に解説したのが本書。今、多くの会社の経営が不安定になっている。社長のどんな言動が会社にとってマイナスになってしまうのか、ぜひ学んでほしい。
5	優しい社長が会社を潰す	安藤広大 著/上野直彦 漫画原作	すばる舎	私の会社「識学」が、具体的にどのように会社を変えていくのか。そのストーリーを小説化した本。実話を元に制作しているので、「識学」を導入した会社の成長物語が疑似体験できる。「識学」に少しでも興味ある人に、ぜひ読んでほしい。

選者紹介

池上 英洋(いけがみ ひでひろ)

東京造形大学教授(西洋美術史・文化史)。1967年広島県生まれ。東京藝術大学卒・同大学院修士課程修了。著書に、『西洋美術史入門』『同<実践編>』『死と復活』(いずれも筑摩書房)、『レオナルド・ダ・ヴィンチ生涯と芸術のすべて』(第四回フォスコ・マライーニ賞、筑摩書房)、『神のごときミケランジェロ』(新潮社)、『イタリア24の都市の物語』(光文社)など。日本文藝家協会会員。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	シュメール神話集成	杉勇/訳 尾崎亨/訳	筑摩書房	最古の文字文明を興したシュメール人による神話群。粘土板に記されたこの物語には、ノアの箱舟のもととなったジウスドゥラの洪水伝説や、イザナギやオルフェウスの冥界下りを思わせるイナンナの逸話など、神話やおとぎ話の原型がある。人類が何を信じ、何を疑問に思っていたかを知ることは、人類が普遍的に持つ思考への理解を深める一助となるはずだ。
2	枕草子 上・下	清少納言/著 島内裕子/校訂・訳	筑摩書房	春は、曙一。私たちは、これからますます近代化とグローバル化の波に吞み込まれていく。日本文化の<日本性>とも呼ぶべきものは、その過程で薄まっていく運命にある。その渦のなかにあっても、私たちの精神活動の底に漂う日本性を見つめることは無益ではない。そのためのテキストとして、千年前の一女性の視点と分析ほど鋭く的確なものはない。
3	国境のない生き方	ヤマザカマリ/著	小学館	いつの日か、人種や言語の違い、ましてや国籍の違いなど意味をもたなくなる時がやってくる。しかしその過程では、異質さとの遭遇で摩擦が生じやすくなるだろう。そんな時、ひと足先に国境のない生き方を実践している人の言を聞くのは良い準備になるはずだ。「どこまで寛容でいられるかというのは、そのコミュニティの成熟度を測る尺度でもある」。
4	フレデリック ちょっとかわったのねずみのはなし	レオ・レオニ/作 谷川俊太郎/訳	好学社	イソップの寓話では、冬の備えを怠ったキリギリスは餓死してしまう。同じように、準備に忙しい仲間をしり目に野鼠のフレデリックはただジッと佇んでいるだけなのだが、実はその間も彼は別のものを蓄えていたのだ。この短編には、文化の存在理由の問いに加え、私たちが今後直面するだろう物質的・精神的豊かさの選択について考えるヒントがある。
5	「失われた名画」の展覧会	池上英洋/著	大和書房	私たちは何を未来に残せるのか。書物や芸術品は人類の精神活動の所産そのものだが、長い歴史のあいだに、膨大な数の芸術作品が失われてきた。天災によるものもあるが、そのほとんどは戦争や略奪といった人為的な原因によるものだ。本書は、失われた絵画の模写や下絵、写真などを見ることで、未来に伝えることの意義を理解するためのものである。

選者紹介

いしかわ こうじ

絵本作家

武蔵野美術大学卒業。イラストレーター、ペーパーわんこ作家を経て、ポロニーヤ国際絵本原画展入選を機に絵本作家になる。ユニークな発想と豊かな色彩の造形で、芸術性とポピュラリティの高い絵本を制作している。『どうぶついろいろかくれんぼ』(シリーズ250万部)『おめんです』(積文館G絵本大賞)『たまごのえほん』(日本書籍出版協会理事長賞)などロングセラーを出版。海外でも翻訳版を数多く出版。講演会やワークショップも行なっている。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	とんとんとんでサンフランシスコ	ドン・フリーマン/さく やましたはるお/やく	BL出版	1958年にコールドコト賞を受賞した歴史的な絵本。作者ドン・フリーマンは「くまのコールテンくん」など傑作を数多く生んだ巨匠です。この絵本では、サンフランシスコの街を舞台に、ハトのシッドとミッジの冒険を描いています。赤いゴールデンゲートブリッジを見下ろすシーンは、ヒッチコックの映画「めまい」のように美しい。冒険の末に2羽が安息の場所を見出す場面では、大きな感動が待っています。
2	取材・執筆・推敲 書く人の教科書	古賀史健/著	ダイヤモンド社	白くて分厚い本の独特の行まいと、挑発的な帯の推薦文に惹かれて買ってみた本です。取材の仕方、文章を書く心構え、推敲の大切さを、分析的かつ熱い文章で語っています。ライター(文章家)として全力で生きて行く覚悟、が全編に通底して流れていると感じました。僕の絵本制作の姿勢に通じる所もあり、好感を持って読みました。文章を生業にする人に広く役立つ本だと思います。
3	岡本太郎と太陽の塔	平野暁臣/編著	小学館クリエイティブ	大阪万博は、日本の一つの文化的ピークでした。未来的なフォルムのパビリオン群。中でも太陽の塔は、ウルトラマンとミロと縄文人が出会ったような造形が圧倒的でした。そして塔内部の「生命の樹」。僕も復元された内部を見学しましたが、地球の生物の歴史をたどる展示が廣術的に美しい！これは、岡本太郎が太陽の塔を完成させるまでの格闘を、貴重な資料と図版で描いた、すごい本です。
4	おめんです	いしかわこうじ/作・絵	偕成社	鬼、おたふく、狐…。一点一点、手塗りの日本のお面は、本当に美しいですね。仕掛け絵本「おめんです」は、日本の伝統的なお面を丁寧にリアルに描くことで、赤ちゃんからお年寄りまで世代を超えて楽しめるロングセラーになりました。ちょっとこわいお面をとると、意外にかわいい動物が登場。そのギャップの気持ちよさを、どうぞお楽しみください。
5	あかちゃんにここに	いしかわこうじ/作・絵	ポプラ社	僕は2人の子育てを通じて、赤ちゃんの成長の原動力は「まねっこ」にある、と感じました。この「あかちゃんにここに」には、左ページに赤ちゃん、右ページには動物が描かれていて、それぞれ同じ表情をしています。読み聞かせをすると、あら不思議！赤ちゃんが思わずまねっこしたくなります。「できたね！」「たのしいね！」 まねっこ遊びで、成長の喜びを体感してくださいね。

選者紹介

石戸 諭(いしど さとる)

1984年、東京都生まれ。ノンフィクションライター。立命館大学法学部卒業後、2006年に毎日新聞社に入社し、2016年にBuzzFeed Japanに移籍。2018年に独立してフリーランスのライターに。2020年に「ニューズウィーク日本版」の特集「百田尚樹現象」で「第26回編集者が選ぶ雑誌ジャーナリズム賞作品賞」、2021年に「文藝春秋」掲載のレポートで「PEPジャーナリズム大賞」を受賞。週刊誌から文芸誌、インターネットまで多彩なメディアへの寄稿に加え、フジテレビ、朝日放送などへのテレビ出演と幅広く活躍中。著書に、『リスクと生きる、死者と生きる』(垂紀書房)、『ルポ 百田尚樹現象 愛国ポピュリズムの現在地』(小学館)。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	かがみの弧城 上・下	辻村深月 / (著)	ポプラ社	いじめ、不登校というテーマを据えて、「人の心」という繊細な謎を解き明かす。あえて新しい「社会派」ミステリー小説と呼びたい。主人公が善、その他が悪という単純な善悪二元論の構図を使わずに描き出す姿勢が新しい時代を感じさせる。
2	ゲンロン戦記 「知の観客」をつくる	東浩紀 / 著	中央公論新社	筆者が構成という形で関わったゲンロン創業者の10年記。言論界のメインストリームにいながら安住することなく、新しい知を切り開く哲学者の実践の先に道がきつ々ある。2020年代もゲンロンは歩みを止めないだろう。
3	今日の芸術	岡本太郎 / 著	光文社	2020年代という時代だからこそ、岡本太郎の真意を受け止められるのではないかと。同質的で「こちよい」空間にとどまることは停滞である。創ることを止めてはいけない。
4	沢木耕太郎セッションズ〈訊いて、聴く〉4 星をつなぐために	沢木耕太郎 / 編著	岩波書店	取材して書くとはどういうことか。途方もない無駄を積み重ね、人や社会の奥へ、奥へと踏み込んでいくために何が必要なのか。第一線からの伝言は「未来へつなぐ」価値を持っている。
5	ニュースの未来	石戸諭 / 著	光文社	既存のマスメディアが無くなっても、ニュースが無くなる日はない。今こそマネタイズやビジネスモデルの論争だけではなく、「良いニュース」、クオリティの競争が必要だ。良いニュースはいかにして成り立つのか。良いものこそが未来を切り開くと信じている。

選者紹介

稲垣 栄洋(いながき ひでひろ)

1968年静岡県生まれ。岡山大学大学院修了後、農林水産省、静岡県農林技術研究所等を経て、現在、静岡大学農学部教授。農学博士。専門は雑草生態学。130冊の著書がある。主著に「弱者の戦略(新潮新書)」「雑草という戦略(日本実業出版社)」「38億年の生命史に学ぶ生存戦略(PHP研究所)」「生物に学ぶ ガラパゴス・イノベーション(東京書籍)」等がある。2017年から2021年まで入試に使われた著者1位にランクインされている。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	生き物の死にざま 生き物の死にざま はかない命の物語	稲垣栄洋	草思社	世界は生命であふれている。ということは、同じだけ死であふれている。すべての生き物は最後には死ぬ。私たちは、生と死によって命のバトンをリレーしてきた。「生きる」とは、どういうことなのだろう。生き物たちの死にざまから考えてみたい。
2	はずれ者が進化をつくる —生き物をめぐる個性の秘密	稲垣栄洋	筑摩書房	「個性が大事だ」とか「個性の時代」と言われる。「個性」とはいったい何なのだろうか？ 生物の世界を見れば、「個性」にあふれている。生物にとって個性とは、進化の結果、獲得してきた戦略に他ならない。生物にとって「個性」とは何なのだろう。そして、私たちに与えられた「個性」には、どのような意味があるのだろうか。
3	銃・病原菌・鉄 1万3000年にわたる人類史の謎 上・下	ジャレド・ダイヤモンド著、倉骨彰訳	草思社	私たちは、どのような歴史をたどってここに来たのだろうか。そして、私たち人類はこれからどこへいくのだろうか。そのヒントは人類史にあるのかも知れない。人類の歴史は農耕や文明から説明されることが多いが、さらに「武器」と「病原菌」と「鉄」という視点を加えることによって、人類史が鮮やかに立体化されていく。
4	WHAT IS LIFE? 生命とは何か	ポール・ナース著、竹内薫訳	ダイヤモンド社	「生命」とはこの世にありふれた当たり前の存在だが、「生命とは何か」というシンプルな問いには、誰も答を出すことができない。それどころか、研究すればするほど、謎は深まっていく。生命とは？ 生きるとは？ 生物学の基礎的な知識とともにその不思議さを伝えてくれる。
5	考えすぎる脳、楽をしたい遺伝子	長沼駿	クロスメディア・パブリッシング	人間は脳を高度に発達させたが、その一方で、それは深い悩みも生み出した。私たちが持つ脳や遺伝子の性格をきちんとすれば、生きることはずっと楽になる。これこそが、人間の知恵というべきものなのだろう。

選者紹介

稲葉 俊郎(いなば としろう)

1979年、熊本県生まれ。医師。東京大学医学部付属病院循環器内科助教を経て、2020年4月より軽井沢病院総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授に就任。著書に『いのちを呼びさますもの』『いのちのはのちのちへ』(アノニマ・スタジオ)、『ころころするからだ』(春秋社)、『からだところの健康学』(NHK出版)など。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	ヒトのからだ 生物史的考察	三木成夫	うぶすな書院 (地方小)	からだの歴史には、宗教や人種を超えた普遍性がある。からだを大切にすることは、お互いのいのちを大切にすることにつながります。
2	ユング心理学入門	河合隼雄	岩波書店	河合先生の洞察の深さと表現の分かりやすさは、人を見る眼差しの深さや優しさに由来していると感じます。人間を深く知るための格好の入門書。
3	ブッダのことば スッタニパータ	中村元訳	岩波書店	仏教は知っていても、ブッダ自身の言葉を読んだことがない人は多いかもしれません。『ブッダ真理のことば・感興のことば』『ブッダ最後の旅 大バリニツパーナ経』と合わせて、偉大な仏教学者、中村元さんの名訳にうなります。何度も何度も読み返した座右の書。
4	禪と日本文化	鈴木大拙著／北川桃雄訳	岩波書店	日本文化に大きな影響を与えている「禅」。茶道も能楽も芸道も、禅を母体にした哲学なのかもしれません。鈴木大拙は論旨が明確で、日本人の「こころ」の基底にあるものを教えてくれます。
5	からだところの健康学	稲葉俊郎	NHK出版	そもそも「からだ」と「こころ」はどのように働いているのでしょうか。そして、それらを基本としている、人間の生命の全体像とはどういふものなのでしょうか。それらを正面から考えずに、「健康」や「病氣」のことを考えることは難しいのではないかと思います。「健康とは何か」。その定義は一つではありません。その人にとっての「健康」は、一人ひとりが主体的に決めて、発見するものです。

選者紹介

猪瀬 直樹(いのせ なおき)

1964年長野県生まれ。作家。87年『ミカドの肖像』で大宅壮一ノンフィクション賞、96年『日本国の研究』で文藝春秋読者賞受賞。東京大学客員教授、東京工業大学特任教授を歴任。2002年、小泉首相より道路公団民営化委員に任命される。07年、東京都副知事に任命される。12年、東京都知事に就任。13年、辞任。主な著書に『天皇の影法師』『黒船の世紀』『民警』『救出』のほか『日本の近代 猪瀬直樹著作集』がある。近著に『日本国・不安の研究』(公〈おおやけ〉日本国・意思決定のマネジメントを問う)『カーボンニュートラル革命』など。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	昭和16年夏の敗戦	猪瀬直樹／著	中央公論新社	日本の意思決定の問題点がコロナ禍であらためて浮き彫りになった。その原点を辿る。
2	昭和23年冬の暗号	猪瀬直樹／著	中央公論新社	『昭和16年夏の敗戦』は開戦の意思決定がテーマだが、本作は敗戦日本に仕掛けられたアメリカの意図を読み解いている。
3	カーボンニュートラル革命	猪瀬直樹／著	ビジネス社	19世紀の産業革命に対し、いま我々は気候変動を克服するための第2の産業革命の渦のまっただ中にある。その自覚をどのように持つのか。先端情報の分析で解を示す。
4	ヒロシマ 増補版	ジョン・ハーシー／著 石川欣一／訳 谷本清／訳 明田川融／訳	法政大学出版局	「20世紀アメリカ・ジャーナリズムの業績トップ100」において第1位に選ばれた、ピューリッツァ賞作家ジョン・ハーシーによる史上初の原爆被害記録。
5	三島由紀夫スポーツ論集	三島由紀夫／(著) 佐藤秀明／編	岩波書店	1964年東京五輪を目撃した三島由紀夫の鋭利なスポーツ論集。一読、その描写の力に圧倒されるだろう。

選者紹介

榎本 博明(えのもと ひろあき)

心理学博士。1955年東京生まれ。東京大学教育心理学科卒。東芝市場調査課勤務の後、東京都立大学大学院心理学専攻博士課程中退。川村短期大学講師、カリフォルニア大学客員研究員、大阪大学大学院助教授等を経て、現在MP人間科学研究所代表。著書に「伸びる子どもは〇〇がすごい」「読書をする子は〇〇がすごい」「ビジネス心理学大全」(いずれも日経BP)

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	伸びる子どもは〇〇がすごい	榎本博明/著	日本経済新聞出版社	AIなど科学技術の発達が子どもの生育環境を一変させつつある今日、子どものために何をすればよいのかが見えにくくなっている。将来、厳しい社会の荒波を乗り越えていける子にするには、どのような育て方を心がけたいのか。世の中に広まっている大きな勘違いを指摘し、子ども時代に身につけるべき大切なことは何かを示す。
2	スマホを捨てたい子どもたち 野生に学ぶ「未知の時代」の生き方	山極寿一/著	ポプラ社	スマホを捨てたいという子どもや若者が意外に多い。日常的にスマホを使いながらも、スマホに依存する生活に疲れを感じ、多くの人とインターネット上でつながることに漠然とした不安を感じている。テクノロジーが生み出す予測不能な時代をどう生きていったらよいのか。そのヒントをゴリラ研究者が示す。
3	モモ	ミヒヤエル・エンデ / 作 大島かおり / 訳	岩波書店	時間泥棒から自分の時間を取り戻そうとする物語。効率性にとらわれがちな今日、豊かな時間を過ごすとはどういうことかを考えさせてくれる。そして、人の話にじっくり耳を傾けてくれる少女モモは、周囲の人たちを幸せにする。話を聞いてもらうだけで人は前向きになれる。忙しい現代人が見失いがちなことに気づかせてくれる。
4	やさしさの精神病理	大平健/著	岩波書店	やさしさが変容しつつある。そのように指摘する著者は、相手の気持ちを察し共感する「旧来のやさしさ」と、相手の気持ちに立ち入らない「新たなやさしさ」を対比させる。新たなやさしさは、傷を癒すやさしさよりも傷つけないやさしさを重視する。そうした傾向はますます顕著に。やさしさとは何かについて深く考えさせてくれる。
5	危うし！小学校英語	鳥飼玖美子	文藝春秋	小学校での英語教育が始まった。英語や欧米へのコンプレックスが強い日本では、英語を早くから学ぶのは良いことだと思込みがちだ。だが、教育心理学的に考えると、それは知的発達にとっての大きな危険を伴う。同時通訳者としても英会話講座担当者としても活躍する著者が、幼い頃から英語を学ばせることの問題点について解説する。

選者紹介

岡本 純子(おかもと じゅんこ)

「伝説の家庭教師」と呼ばれるエグゼクティブ・スピーチコーチ&コミュニケーション・ストラテジスト。これまでに1000人を超える社長、企業幹部に、「秘伝のコミュニケーションノウハウ」を伝授。その「劇的な話し方の改善ぶり」と実績から「伝説の家庭教師」と呼ばれ、好評を博している。株式会社グローコム代表取締役社長。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。英ケンブリッジ大学国際関係学修士。米MIT比較メディア学元客員研究員

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	夜と霧	ヴィクトール・E. フランクル / 著 池田香代子 / 訳	みすず書房	英語タイトル名は「Man's Search For Meaning」。ナチス・ドイツの過酷な収容所時代を生きた心理学者が、地獄のような経験を振り返り、たどり着いた「生きる意味」とは？「Sense of purpose」(生きる目的意識)を持つ人こそが、苦難を乗り越えられる、と言う洞察は私自身の生きる指針にもなっています。
2	チャーチル・ファクター たった一人で歴史と世界を変える力	ボリス・ジョンソン / 著 石塚雅彦 / 訳 小林恭子 / 訳	プレジデント社	希代の「言葉師」と言えば、第二次大戦中、イギリスの陣頭指揮を執ったウィンストン・チャーチルでしょう。このたくいまれなコミュカの秘密を、現代の「トリックスター」イギリスのボリス・ジョンソン首相が迫ったこの本は、乱世の人心掌握術を学ぶ格好の指南書になっています。
3	事実はなぜ人の意見を変えられないのか 説得力と影響力の科学	ターリ・シャーロット / 著 上原直子 / 訳	白揚社	「(自分が)何を言うか」より、「(相手が)何を聞きたいのか」「(相手を)どういう気持ちにさせるのか」がコミュニケーションのカギです。人はどうしても、「自分が何を言うのか」に意識を向けてしまいがちですが、結局、事実や「正しいこと」は相手には刺さりにくい。その「不都合な真実」について、科学的に分析した示唆に富む本です。
4	世界一孤独な日本のオジサン	岡本純子/著	KADOKAWA	「孤毒」ではなく、「個独」へ。望まぬ「孤独」は現代の伝染病と言われ、健康や幸福感を蝕むと言われています。人生100年時代をどう軽やかに、しなやかに生き抜くか。誰も置き去りにしない社会を作るために何ができるのか。「孤独」と言う観点から、人との上手なつながり方、これからの生き方について追った本です。
5	世界最高の話し方 1000人以上の社長・企業幹部の話し方を変えた！ 「伝説の家庭教師」が教える門外不出の50のルール	岡本純子/著	東洋経済新報社	コミュニケーションってただ「伝える」だけのものじゃないんです。言葉をつなげ、人をつなげ、未来へつなぐもの！エグゼクティブの「話し方の家庭教師」である著者が、劇的に「話す力」「つながる力」を改善するマル秘メソッドを初公開。雑談からプレゼン、説得まで皆さんのコミュニケーションのお悩みをこれ一冊で解決します！

選者紹介

沖山 誠(おきやま まこと)

1995年東京生まれ。「図解総研」理事。明治大学経営学部会計学科卒。経営コンサルティング企業を経てフリーランスとなり、現職。ビジネス書・教養書などを図解したnoteの解説記事が人気を博し、フォロワー数は3万人を超える。図解をベースにした「本を読まずに参加できる読書会Booked」を主催し、大手企業や教育機関等に提供している。共著に『ビジネスの仕組みがわかる 図解のつくりかた』(スマート新書)など。

選者紹介

近藤 哲朗(こんどう てつろう)

株式会社そろそろ代表取締役・図解総研代表理事。千葉大学大学院工学研究科修了後、面白法人カヤックに入社。2014年、株式会社そろそろを創業。2018年に『ビジネスモデル2.0図鑑』を出版、国内外での発行部数が9万部を超える。2020年『共通言語の発明』をコンセプトに、ビジュアルシンクタンク「図解総研」を設立し、大手企業・研究機関・行政との図解を通じた共同研究を行う。共著に『会計の地図』など。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	会計の地図 「お金の流れ」がたった1つの図法でぜんぶわかる	近藤哲朗/著 沖山誠/著 岩谷誠治/監修	ダイヤモンド社	ビジネスに携わる人にとって共通言語としての「会計」。でも、いざ勉強しようとするとき耳慣れない単語ばかりで難しい。この本では「会計の地図」という1つの図法で会計の全体像をシンプルに整理し初めて会計に触れる人もつまづかないよう工夫しました。会計をこれから学ぶ人、会計に苦手意識がある人、ぜひ読んでみてください。
2	ビジネスモデル2.0図鑑	近藤哲朗/著	KADOKAWA	面白い100個の事業を、ビジネスモデル図解という共通のフォーマットで整理し紹介しています。事例それぞれを読み解くのも面白いですが、これからのビジネスモデルを考えるための枠組みを序章で提起しています。ビジネスを通して未来に新しい価値を生み出した人には、ぜひ序章も読んでほしいです。
3	わたしは分断を許さない 香港、朝鮮半島、シリア、パレスチナ、福島、沖縄。「ファクトなき固定観念」は何を奪うのか?	堀潤/著	実業之日本社	世界が多様性を認めようとして取り進む一方で、多くの分断が生じている。今、日本や世界で起きている分断から目を逸らさないこと、そして自分もその分断を生み出す当事者になってしまうかもしれないという自覚を持つこと。それが多様性の確保を実現する第一歩だと気づかせてくれる一冊です。
4	サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福 上・下	ユヴァル・ノア・ハラリ/著 柴田裕之/訳	河出書房新社	人類史を、3つの象徴的な出来事を軸にしてまとめた本。過去の出来事だけでなく、未来への警鐘まで含んでいる(だから「全史」)。そもそもなぜ過去を学ぶ必要があるのか? 僕らがどうして今の社会を作り上げることが出来たのか? 未来をどう考えるべきか? といった歴史感覚の基礎を作ってくれる名著だと思います。
5	中動態の世界 意志と責任の考古学	園功一郎/著	医学書院	人は言語によって思考の可能性を規定されている。今の僕らが使用している言語の枠組みは、能動態と受動態という対立軸。でも、過去にはこの対立軸に当てはまらない「中動態」という態があり、そこには僕らが失ってしまった世界の捉え方がある。その枠組みを知ること、思考の可能性を広げられる好著だと思います。

選者紹介

落合 陽一(おちあい よういち)

1987年東京都生まれ。筑波大学を卒業し、東京大学大学院で博士号を取得(学際情報学術院の早期修了者)。2021年7月現在、筑波大学准教授/デジタルネイチャー開発研究センター・センター長。ベンチャー企業や一般社団法人の代表を務めるほか、政府有識者会議の委員等も歴任。メディアアーティストとして個展も多数開催し、研究から芸術に至るさまざまな分野において国内外で受賞多数。日本テレビ系「news zero」をはじめ、メディアでの発信も行つ。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	方法序説	デカルト/著 谷川多佳子/訳	岩波書店	デカルト的世界観を超越するためにデカルトを理解する。
2	物質と記憶	ベルクソン/著 熊野純彦/訳	岩波書店	イメージと物質について考える。
3	精神と物質 意識と科学的世界像をめぐる考察	エルヴィン・シュレーディンガー/著 中村量空/訳	工作舎	物理学者の推論、近代の限界。
4	デカルトからバートランドへ 世界の再美術化	モリス・バーマン/著 柴田元幸/訳	文藝春秋	デカルト的世界観から精神と自然への展開。
5	ツアラトウストラはこう言った 上・下	ニーチェ/著 氷上英広/訳	岩波書店	能動的ニヒリズムによる近代の超克。
6	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	マックス・ウェーバー/著 大塚久雄/訳	岩波書店	そして、新しい資本のエコシステムを作るために。
7	日本教の社会学 戦後日本は民主主義国家にあらず	小室直樹/著 山本七平/著	ビジネス社	空気と和、ドグマと戒律。
8	テクニウム テクノロジーはどこへ向かうのか?	ケヴィン・ケリー/著 服部桂/訳	みすず書房	ケヴィン・ケリーの見てきたものからプロトピアへ。
9	ユートピア	トマス・モア/著 平井正徳/訳	岩波書店	エコシステムのデザインとディストピアメディア論。
10	メディア論 人間の拡張の諸相	マーシャル・マクルーハンの(著) 栗原裕/訳 河本伸聖/訳	みすず書房	電信系と五感、インターネット以後の自然を捉えるために。
11	生態学的視覚論 ヒトの知覚世界を探る	J. J. キブソン/著 崎崎敬/〔ほか〕共訳	サイエンス社	視覚と環境のエコシステム。
12	リトル・ビーブルの時代	宇野常寛/著	幻冬舎	大きなものと日本コンテンツ、テレビ。
13	統治二論 完訳	ジョン・ロック/著 加藤節/訳	岩波書店	自然から近代へ。近代の限界の理解。
14	リヴァイアサン 1~4	ホブズ/著 水田洋/訳	岩波書店	プラトフォーマーに思いを馳せて。
15	アルジャーノンに花束を	ダニエル・キイス/著 小尾英佐/訳	早川書房	言語と現象、文脈と言葉の問題を考える。
16	ご冗談でしょう、ファインマンさん 上・下	R. P. ファインマン/著 大貫昌子/訳	岩波書店	プレーヤーとしての科学者、そして生き方。
17	魔法の世紀	落合陽一/著	PLANETS	我々は自ら自然を構築し融和し、メタ自然に生きる。
18	デジタルネイチャー 生態系を為す汎神化した計算機による侘と寂	落合陽一/著	PLANETS	新しい自然へ。
19	半歩先を読む思考法 落合陽一の見ている風景と考えていること	落合陽一/著	新潮社	日々を綴る考え方の実践。

選者紹介

加来 耕三(かく こうぞう)

歴史家・作家。1958年10月、大阪市内に生まれる。1981年3月、奈良大学文学部史学科を卒業後、奈良大学文学部研究員を経て、現在は大学・企業の講師を務めながら、歴史家・作家として著作活動をおこなっている。雑誌『歴史研究』編集委員。このほか、テレビ・ラジオの番組監修・出演などの依頼も少なくない。2021年10月9日より、出演番組『偉人・素顔の履歴書』(BS11・毎週土曜20時)がレギュラー放送予定。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	戦国人物伝 小早川秀秋 【コミック版 日本の歴史】	企画・構成・監修／加来耕三原作／静霞薫作画／小林裕和	ポプラ社	天下分け目の関ヶ原の合戦において、石田三成率いる西軍から、徳川家康率いる東軍へと寝返り、東軍を勝利に導くこととなった小早川秀秋。近年の研究に基づき、その実像や寝返りの真相を、コミックで分かりやすく描いています。これまで、「裏切り者」と称されてきた秀秋の真意や、新たな一面に出会っていただける1冊です。
2	戦国武将学 歴史に学び未来を読む	加来耕三／著	松柏社	歴史に学び、原理原則を知ることができれば、過去は未来に活用できます。そのためには、立ち止まって考え、疑問を抱くことが大切です。本書では、戦国武将の、一般に知られているようで、正しく理解されていないと思われる事例を紹介しています。歴史の本質を見極める目を、養っていただければと思います。
3	「気」の使い方 歴史上の成功者に学ぶ無限の思考術	加来耕三／著	さくら舎	「気」とは、生きる力＝「生命力」そのものであり、誰もがもともと持っています。歴史上の成功者たちは、この「気」の使い方にすぐれていました。「ウイズ・コロナ」の時代を迎えておりますが、「気」を病む前に、歴史の叢智から「気」の使い方を学び、心身ともに充実した日々を送っていただけたらと願っております。
4	論語	〔孔子／著〕 金谷治／訳注	岩波書店	『論語』は、古代中国の「四書五経」のひとつであり、孔子とその弟子たちの言行録です。NHK大河ドラマ『青天を衝け』の主人公であり、「日本の近代資本主義の父」と称される渋沢栄一が、実業を行う上での規範としたのも『論語』でした。時代をこえて読み継がれる名著を、この機にぜひ、お手にとってみてはいかがでしょうか。
5	方丈記	鴨長明／著 浅見和彦／校訂・訳	筑摩書房	「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という、世の無常を表現した流麗な文章で始まる『方丈記』は、鴨長明による鎌倉時代の随筆です。彼が生きたのは、大火や飢饉、地震などの天災に見舞われた時代でした。自然災害や新型コロナウイルスの流行など、先の見えない現代だからこそ、読んでおきたい名作です。

選者紹介

加藤 文元(かとう ふみはる)

1968年、宮城県生まれ。東京工業大学理学院数学系教授。97年、京都大学大学院理学研究科数学数理解析専攻博士後期課程修了。九州大学大学院助手、京都大学大学院准教授などを経て、2016年より現職。著書に『宇宙と宇宙をつなぐ数学』(KADOKAWA)、『ガロア 天才数学者の生涯』(角川ソフィア文庫)、『物語 数学の歴史 正しさへの挑戦』(中公新書)『数学の想像力 正しさの深層に何があるのか』(筑摩選書)など多数。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	ホモ・サピエンスは反逆する	日高敏隆／著	朝日新聞出版	著名な動物行動学者による一風変わったエッセイ。「ホモ・サピエンス」という視点からは現代文明と人間のちよっと普通じゃない姿が見えてくるかもしれない。そしてそこからつながる未来として見えてくる姿は、これまたちよっと普通じゃない。
2	ヨーロッパ世界の誕生 マホメットとシャルルマーニュ	アンリ・ピレンヌ／〔著〕 増田四郎／監修 中村宏／訳 佐々木克巳／訳	講談社	格言「マホメットなくしてシャルルマーニュなし」でも有名な本書は、ヨーロッパの形成課程を通して、世界は空間的にも時間的にも複雑につながり合っていることを再認識させてくれる。そして今後の世界がどうなっていくのか、考えずにはいられなくなる。
3	かくれた次元	エドワード・ホール／〔著〕 日高敏隆／訳 佐藤信行／訳	みすず書房	人間が空間を認識し利用する中に隠れた文化的次元があるという著者の指摘は古くて新しい。ますます多様化し、異文化コミュニケーションの重要性が増大している現代において、その複雑さの向こう側にある種の統一的視点があることを示唆しているのかもしれない。
4	「人工知能」前夜 コンピュータと脳は似ているかーコンピュータと脳は似ているかー	杉本舞／著	青土社	人工知能が未来につながる最新技術なら、その前夜に起こっていたエピソードや、その背景にあった思想の変遷は未来に語り継がれるべきだろう。それを知ることが、人工知能とは何であり、人間はどのように人工知能と関わっていくべきかについてのヒントを与えるだろう。
5	宇宙と宇宙をつなぐ数学 IUT理論の衝撃	加藤文元／著	KADOKAWA	最近新聞やテレビでも話題になった、現代数学の大難問「ABC予想」を解決するため、京大数理研の望月新一教授が提唱した「宇宙際タイヒミュラー(IUT)理論」が生まれた背景や、数学者の世界についての本です。「数学者ってそもそも何をしている人たちの？」といったことに興味のある方も、面白く読めると思います。

選者紹介

鎌田 浩毅(かまた ひろき)

1955年東京生まれ。筑波大学附属駒場中学・高等学校卒業。東京大学理学部地学科卒業。通産省主任研究官、京都大学大学院人間・環境学研究科教授を経て、現在京都大学レジリエンス実践ユニット特任教授・同名誉教授。専門は火山学、地球科学、科学教育。「京大人気No.1教授」の「科学の伝道師」。著書は『100年無敵の勉強法』(ちくまQブックス)、『新版 一生モノの勉強法』(座右の古典)、『共にちくま文庫』、『地震はなぜ起きる?』(岩波ジュニアスタートブックス)、『首都直下地震と南海トラフ』(MdN新書)、『富士山噴火と南海トラフ』(ブルーバックス)、『理科系の読書術』(中公新書)、『世界がわかる理系の名著』(文春新書)、『理学博士の本棚』(角川新書)など。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	10代のための読書地図	本の雑誌編集部	本の雑誌社	老舗の「本の雑誌」が選んだ10代におすすめする100冊。活字離れとネット中毒を吹っ飛ばすような若者向けの本を満載。10代をとうに過ぎた私にもとても面白くインパクトがあった。知らなかった好著がたくさん見つかること、保証します。
2	決定版-HONZが選んだノンフィクション	成毛眞	中央公論新社	「ゼッタイ読むに値するノンフィクション」を紹介する書評集団が10周年を迎え、総計3000冊の中から100冊を厳選した。科学・歴史・経済・美術・ビジネスなどあらゆる分野の「オススメ本」から不確実の世界を見通そう。
3	探究する精神 職業としての基礎科学	大栗博司	幻冬舎	物理学と数学の第一人者が子ども時代からの半生を振り返り、職業としての基礎科学を熱く語る。本物の学者が書いた啓発書はこんなにスラスラ読めることに驚く。若者よ、日本が世界に誇る知性に続け!
4	座右の古典 今すぐ使える50冊	鎌田浩毅	筑摩書房	歴史のふるいにかけて残った古典50冊を厳選し、科学者がどう読んだか、いかに役に立ったかを開示。キモの名文をピックアップし、エッセンスを3行で要約。忙しい現代人のための「マスト」古典案内。
5	理学博士の本棚	鎌田浩毅	KADOKAWA	中高生時代に読んだ本が、人生に思わぬ影響を与えることがある。古典よりも身近な「中古典」の名著12作品を紹介。ミヒャエル・エンデ『モモ』や寺田寅彦『天災と国防』など、大人になって読み返す楽しみの宝庫でもある。

選者紹介

亀山 郁夫(かめやま いくお)

1949年生まれ。名古屋外国語大学学長。東京外国語大学名誉教授。日本藝術院会員。ドストエフスキー関連の研究のほか、ソ連・スターリン体制下の政治と芸術の関係をめぐる多くの著作がある。著書に『新カラマーゾフの兄弟』『謎とき「悪霊」』『磔のロシア』『熱狂とユーフォリア』『ドストエフスキー父親殺しの文学』『「悪霊」神になりたかった男』『大審問官スターリン』『ドストエフスキー 共苦する力』『ドストエフスキー 黒い言葉』『シオスタコーヴィチ 引き裂かれた栄光』ほか多数。訳書に『カラマーゾフの兄弟』『罪と罰』『悪霊』『白痴』『賭博者』『地下室の記録』(以上、ドストエフスキー)ほか。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	本心	平野啓一郎/著	文藝春秋	もはや、リアルとバーチャルの境界線はない。それを引き受けて生きるのが、未来の世代だ。希望の概念を変える小説。引き込まれた、というより、呑みこまれた。
2	カード師	中村文則/著	朝日新聞出版	運命とは何か。人間の欲望の極限をのぞき込む作品。
3	冗どもえ	辻原登/著	中央公論新社	超円熟の境地にある作家のエロティシズム。3、11の記憶が二重写しとなる。
4	罪と罰 1~3	ドストエフスキー/著 亀山郁夫/訳	光文社	ラスコリニコフは、サイコパスか? 「境界人間」の絶望的なあがきは、現代人の病だ。
5	ドストエフスキー黒い言葉	亀山郁夫/著	集英社新書	自薦。ポストグローバル、パンデミック時代を意識しながら、現代におけるドストエフスキー文学の意味を考えた。

選者紹介

岸本 佐知子 (きしもと さちこ)

上智大学文学部英文学科卒。洋酒メーカー宣伝部勤務を経て翻訳家に。主な訳書にルシア・ペルリン『掃除婦のための手引き書』、ミランダ・ジュライ『最初の悪い男』、リディア・デイヴィス『話の終わり』、ショーン・タン『内なる町から来た話』、ジョージ・ソーンダーズ『短くて恐ろしいフィルの時代』、ニコルソン・ベイカー『中二階』、ジャンネット・ウィンターソン『灯台守の話』。編訳書に『恋愛小説集』『居心地の悪い部屋』『コードモノセカイ』『楽しい夜』など。著書に『気になる部分』『ねにもつタイプ』『ひみつのしつもん』『死ぬまでに行きたい海』などがある。『ねにもつタイプ』で第23回講談社エッセイ賞を受賞。

選者紹介

楠木 建 (くすのき けん)

1964年東京都生まれ。1992年一橋大学大学院商学研究科博士課程修了。一橋大学商学部助教授・同イノベーション研究センター助教授などを経て、2010年より一橋ビジネススクール教授。専攻は競争戦略とイノベーション。著書に、25万部を超えるベストセラーになった『ストーリーとしての競争戦略』の他、『「好き嫌い」と経営』『「好き嫌い」と才能』『経営センスの論理』『好きなようにしてください』『戦略読書日記』などがある。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	パワー	ナオミ・オルダーマン／安原和見・訳	河出書房新社	ある日、女性が一斉に電撃のパワーを身に着け、男性を物理的に圧倒するようになる。するとどんなことが起こるのか…？ 男女を逆転させることで、いまそこにある性の不均衡を強烈にあぶりだす、無類に怖くて面白い近未来フェミニズム・ディストピアSF。最後の一章がまた痛烈で、「くう〜！」と唸りました。
2	バクちゃん 1・2	増村十七／著	KADOKAWA	バク星から地球・日本にやってきたバクちゃんが、移民として日々暮らしを立てながら、永住権を取ることを目指します。バクちゃんのキュートさよ！でも彼を通して、日本で移民として生きることの難しさ、私たちはだかる困難がリアルに描かれます。日本で、日本人として暮らしているは見えない視点を与えてくれる本です。
3	アライバル	ショーン・タン／著 小林美幸／訳	河出書房新社	遠い国から、戦禍をのがれて新大陸にやってきた一人の男。彼が新しい土地で苦労して根をおろしていくまでが、絵の力だけで語られていきます。奇しくも東日本大震災と同時期に刊行されたことで、「住んでいた土地を追われて根無し草として生きる」ことのリアルが、多くの日本人の心をゆさぶりました。
4	フライデー・ブラック	ナナ・クワメ・アジェイ＝プレニヤ／著 押野素子／訳	駒草出版	BLM運動高まるさなかに話題をかっさらった短編集。悪夢的なディストピア世界を描きながら、どの短編も元になった事件や現状がすぐに思い浮かぶのが恐ろしい。「ジマーランド」は、黒人を正当防衛の名のもとにバーチャルに殺せる人気のテーマパークが舞台で、黒いユーモアに、笑ったそばから背筋が凍ります。
5	問題だらけの女性たち	ジャッキー・フレミング／著 松田青子／訳	河出書房新社	十九世紀、「女は脳がスポンジ状で、学問にも芸術にも向いていない」という説が本気で信じられていた！でもこれが今と地続きなのは、#MeTooの女性たちの叫びを見ればわかるとおり。作者はそんな十九世紀的「科学の常識」をおちよくり倒しながら、怒りを笑いでプーストして戦う勇気を与えてくれます。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	高峰秀子の流儀	高藤明美／著	筑摩書房	昭和の女優にして孤高の文筆家であった高峰秀子。過去の人だと思ってしまうかもしれないが、その独立自尊の生き方は令和のいまこそモデルになる。
2	采配	落合博満／著	ダイヤモンド社	これからの時代、リーダーにはぶれない軸足がますます求められる。不変の価値をもつリーダーシップ論にしてプロフェッショナル論。
3	戦争調査会 幻の政府文書を読み解く	井上寿一／著	講談社	なぜ戦争になったのか。敗戦直後の生々しい資料で解明する。戦争の惨禍を訴えるだけでは戦争抑止はできない。本書を読むことはこれからの平和のために大きな価値がある。
4	逆・タイムマシン経営論 近過去の歴史に学ぶ経営知	楠木建／著 杉浦泰／著	日経BP	未来は誰にも正確に予測できない。しかし、過去は確定した事実だ。新聞雑誌は10年寝かせて読め。近過去に立ち戻ることによって、未来への大局観が養われる。
5	「仕事ができる」とはどういうことか？	楠木建／著 山口周／著	宝島社	テクノロジーはスキルをコモディティ化する。あれができる・これができると言っているうちは半人前。余人をもって代えがたい存在になるためにはスキルを超えたセンスがものを言う。

選者紹介

小手鞠 るい (こてまり るい)

1956年岡山県備前市生まれ。同志社大学卒業後、さまざまな職業を経てフリーライターに。1992年渡米後に『海燕』新人文学賞を受賞し小説家デビュー。『欲しいのは、あなただけ』で島清恋愛文学賞を受賞。『エンキョリレンアイ』のヒットを受けて、恋愛小説を多数執筆。その後『アップルソング』『星ちりばめたる旗』『炎の来歴』など、壮大な歴史長編を発表。近年は児童文学作家としても活躍中。ニューヨーク州ウッドストック在住。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	神よ憐れみたまえ	小池真理子／著	新潮社	敬愛してやまない作家の最新刊。「この先、私の肉体が消滅しても、私の中を通りすぎた想い、想念のようなものは消えずに残される」-----この1文に出会うために1100枚の文章を貪り読む。これ以上ない読書の醍醐味と快感を与えてくれる、神がかった傑作長編。日本文学史上に残り続ける作品だと思う。
2	アンソールドイスタンス	金原ひとみ／著	新潮社	芥川賞受賞作から最新作の本作まで、脱皮をくり返しながらかたく強く恐ろしくなっていく蛇のような作家。猛毒としか思えないような文章と、暴力的な文体に酔いしれる。これほどまでに残酷な仕打ちを受けながら、読後は不思議に安らかな気持ちになれる。麻薬中毒って、こんな感じ？
3	命とられるわけじゃない	村山由佳／著	ホーム社	生まれ変わって、もう一度、誰かを激しく好きになれるのなら、私は村山さんの「背の君」みたいな男に恋をしたい！こんなにも「エエ男」と愛する猫たちに囲まれて、ああ、まるで竜宮城みたいな暮らしやないか。由佳さんの優しさがページからあふれてくる、恩寵のような1冊。他の作品も全部おすすめ。
4	ナインストーリーズ	乙川優三郎／著	文藝春秋	古い男たちの、古くて固くなった死骸をどンドン踏み越えて、たくましく健気に生きていく、しなやかな女たちの物語。これはこの作家が「私のためだけに書いてくれた作品なのだ」と思えるような九つのおとぎ話。もう若くはない、と言われていた年代の女性たちへの応援歌。だけど、日本人男性必読！
5	私たちの望むものは	小手鞠るい／著	河出書房新社	70年代に青春時代を送った人なら、このタイトルを見て、岡林信康を思い浮かべて下さることだろう。ギリシャ旅行中、海辺に放置された難破船を目にしたとき、波に乗って彼の歌声が聞こえてきた。同時にこの作品が浮かんできた。望み続ければ、望みは叶うのか。答えはノー。それでいいのだと思う。

選者紹介

佐久間 裕美子 (さくま ゆみこ)

文筆家。1973年生まれ。慶應義塾大学卒業、イェール大学大学院修士課程修了。1996年に渡米し、1998年よりニューヨーク在住。出版社、通信社などでの勤務を経て2003年に独立。カルチャー、ファッションから政治、社会問題まで幅広いジャンルで執筆。著書は他に『真面目にマリファナの話しよう』(文藝春秋)、『My Little New York Times』(NUMABOOKS)、『ピンヒールははかない』(幻冬舎)、『ヒップな生活革命』(朝日出版社)など。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	マチズモを削り取れ	武田砂鉄／著	集英社	マチズモの有害性を男性自身が語る、ということ。「画期的」と思うこと自体が、ジェンダーバランスの不均衡を物語るわけだけれど、まずは男性に当事者意識を持ってほしい。ジェンダー後進国という不名誉におさらばするために必読の書。
2	生きるためのフェミニズム パンとバラと反資本主義	聖田香緒里／著	タパックス	フェミニズムをテーマにしているが、新自由主義／資本主義の欠陥と欺瞞にも切り込む一冊でもある。貧困や格差といった緊急の社会課題を前に、今後の社会やコミュニティのあり方を考えるうえで必要な視点を提供してくれる。
3	ドーナツ経済	ケイト・ラウース／著 黒輪篤嗣／訳	河出書房新社	資本主義の現状はもはや恩恵よりも負荷のほうが大きくなっているのにその現状から脱却できない日本。「これまで通り」はいまや一種の自傷行為。ポスト資本主義の世界を想像するために、斎藤幸平氏の『人新世の「資本論」』と併せて読みたい一冊。
4	Weの市民革命	佐久間裕美子／著	朝日出版社	今アメリカで革命が起きているートランプ政権時代やコロナウィルスの影響がもたらしつつある、「わたしたち」のための市民革命。
5	地球が燃えている 気候崩壊から人類を救うグリーン・ニューディールの提言	ナオミ・クライン／著 中野真紀子／訳 関房江／訳	大月書店	迫りくる気候変動を前に、持続性ある社会をどう作ればいいのか。環境を気候危機から救い、成長一辺倒の経済をソフトランディングさせるためのグリーン・ニューディールの提言。環境主義の前線から社会を見つめ続ける著者による最新作。

選者紹介

末永 幸歩 (すえなが ゆきほ)

美術教師／アーティスト

東京都出身。武蔵野美術大学造形学部卒業、東京学芸大学大学院教育学研究科(美術教育)修了。浦和大学こども学部講師、東京学芸大学個人研究員。

自らもアーティスト活動を行うとともに、子ども向けのアートワークショップや教育機関での出張授業、大人に向けたアート思考のセミナーなども行っている。

著書に『自分だけの答えが見つかる 13歳からのアート思考』。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	「自分だけの答え」が見つかる13歳からのアート思考	末永幸歩／著	ダイヤモンド社	「美術って思考力を高める授業だったんだ」。20世紀のアート作品を題材に、常識を揺るがし、ものの見方をガラッと変えてしまう6つの授業が繰り広げられる。正解のない不確実な時代だって、「自分だけの答え」をつくることで楽しむことができるはず。
2	答えより問いを探して	高橋源一郎／著	講談社	「絶対にそうである」と思われていることを、あえて疑ってみる。なぜなら、絶対にありえないことほど見落とされがちなことはないから。本の中の先生に、自分で問うて自分で答えを探す、素晴らしい授業！
3	短編画廊 絵から生まれた17の物語	ローレンス ブロック	ハーバーコリンズ・ジャパン	20世紀の画家、エドワード・ホッパーの絵をもとに、17人の文豪たちがそれぞれに勝手に解釈して紡いだ物語の短編集。十人十色の「自分なりの答え」が詰まったこの本自体が1つのアート作品のようだ。「自分だったらどんな物語を紡ぐだろう？」と考えてみるのも面白いかもしれない。
4	知覚力を磨く 絵画を観察するように世界を見る技法	神田房枝／著	ダイヤモンド社	新しいものごとを生み出すためには、まず目の前にあるものを様々な角度から「知覚すること」が必要だ。アート作品を題材に、知覚力をトレーニングすることができる一冊。
5	直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN	佐宗邦威／著	ダイヤモンド社	人から与えられた課題をこなしていくだけでいいのか？ 誰かに決められたゴールを目指すだけでいいのか？ 自分のビジョンを見つけるための具体的な手はずが満載。何度も読み返したくなる本。

選者紹介

全 卓樹 (ぜん たくじゅ)

京都生まれの東京育ち、米国ワシントンが第三の故郷。東京大学理学系大学院物理学専攻博士課程修了。専攻は量子力学、教理物理学。ジョージア大、メリランド大、法政大等を経て、現在高知工科大学理論物理学教授。著書に『エキゾチックな量子』（東京大学出版会）、『銀河の片隅で科学夜話』（朝日出版社）などがある。現在、ウェブサイト「あさひてらす」にて『続・銀河の片隅で科学夜話』連載中。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	昨日の世界 1・2	シュテファン・ツヴァイク／(著) 原田義人／訳	みすず書房	いまを遡ること百年ほど、わが世の春を謳歌していた欧州諸国民が、どのようにして自滅の道を行って行ったのか。ウィーンの富裕なユダヤ系実業家の家に生まれ、爛熟期の欧州文化を体現する伝記作家が、そのプロセスを内側から描く本書。これが今あらためて我々に訴えかけるのは何故だろうか。
2	新星座巡礼	野尻泡影	中央公論新社	憂鬱なこと続きの世に倦む日々には、夜の郊外の街灯のない道路に出て、マスクを外して、満天の星空を見上げてみよう。典雅な文体で綴られた本書を案内人として星座を辿るならば、そこに人類文明六千年の悲喜劇の遠景が浮かび上がる。運が良ければ流れ星に出会えるかもしれない。
3	暗号解説 上・下	サイモン・シン／(著) 青木薫／訳	新潮社	古来戦争は二つの空間で並行して戦われてきた。武器による物理空間と暗号による数理空間である。暗号は国を救い国を滅ぼしてきた。エジプトの昔から現代の量子暗号まで、諸民族の血みどろの争いのなから、暗号学という知の金字塔が立ち上がってくる光景に、畏怖を感じない者があるだろうか。
4	断片的なものの社会学	岸政彦／著	朝日出版社	これは一体何についての本だろうか。短編小説集だろうか、社会学的考察の断章だろうか。戸惑った読者は最後に思い当たる。これは何かについての本ではなく、「何か」そのものである事に。それは本が本来そうであるべきもの、市井の都市生活の断片、説明を拒絶した人生そのものの断片である。
5	銀河の片隅で科学夜話	全卓樹／著	朝日出版社	500億年のちは、一日の長さは今の一月ほどになるだろう——空想よりも現実の世界のほうがずっと不思議だ、と感じるような、物理学者のとっておきのお話を22、集めました。「科学者の文章は、独特の詩情を宿していることがある。数理の光によって世界の深みを照らし出すのである。本書もそうした稀有なる一冊だ」——若松英輔さん(共同通信配信)
6	西脇順三郎詩集	西脇順三郎／(著) 那珂太郎／編	岩波書店	情報や感情の伝達手段として帯びてしまった手垢を、綺麗さっぱり洗い流した「言葉そのもの」の清冽な存在感。 石に刻まれた髪 石に刻まれた音 石に刻まれた眼は永遠に開く これこそが、九十年前に華々しくモダニズムとして登場した順三郎の詩が、今でも斬新さを失わない不思議の秘密だろう。

選者紹介

田丸 雅智 (たまる まさとも)

1987年、愛媛県生まれ。東京大学工学部、同大学院工学系研究科卒。現代ショートショートの旗手として執筆活動に加え、坊っちゃん文学賞などにおいて審査員長を務める。また、全国各地で創作講座を開催するなど幅広く活動している。ショートショートの書き方講座の内容は、2020年度から小学4年生の国語教科書(教育出版)に採用。2021年度からは中学1年生の国語教科書(教育出版)に小説作品が掲載。著書に『海色の塩』『おとぎカンパニー』など多数。メディア出演に情熱大陸、SWITCHインタビュー達人達など多数。

田丸雅智 公式サイト:<https://t.co/OTda9gekGV>

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	おとぎカンパニー	田丸雅智/著	光文社	海外童話を現代にアレンジしたショートショート集。新人OLが会社で見つけた不思議な鏡に「鏡よ鏡、同期で一番仕事ができるのは、だあれ?」と話しかける、白雪姫からの1作「同期で一番」など、14編を収録。
2	夢三十夜	「坊っちゃん文学賞」書籍編集委員会/編	学研プラス	ショートショート専門の賞「坊っちゃん文学賞」の受賞作と新作を収録した1冊。蚕の市で買った羽釜から本当に羽が生えてきて、その羽釜との交流を描いた高野ユタさんの1作「羽釜」など、現代ショートショートを代表するアンソロジー。
3	3分で“心が温まる”ショートストーリー	小狐裕介/著	辰巳出版	家事を実況して盛り上げてくれるという不思議なおウムとの毎日を描いた1作「実況オウム」など、繊細で優しい21作を収録。
4	100文字SF	北野勇作/著	早川書房	Twitterで公開中のマイクロノベルから厳選された、200編を収録。説明不要、読めば読むほど味が出る。作品に加え、本のあちらこちらに潜む「100文字」の遊び心も楽しい1冊。
5	ショートショート美術館 名作絵画の光と闇	太田忠司/著 田丸雅智/著	文藝春秋	太田忠司さんと田丸の共著で、同じ絵画をもとにそれぞれが1作ずつ作品を書くという「競作」スタイルの1冊。ゴッホの絵「夜のカフェテラス」から書かれた太田さんの「語り」は、星の美しい夜、ある女性がカフェで「あなた」と再会する、切なくも美しい1作。

選者紹介

寺澤 伸洋 (てらさわ のぶひろ)

1976年大阪府生まれ。灘高校、東京大学経済学部卒業後、日系メーカーで経理、営業、マーケティング、経営企画と多様な部門を経験。イギリス留学後にGAFAのうちの1社に転職し事業企画部長を務める。

2020年より執筆を開始。会社員として働かたから、作家として活動中。著作に『40歳でGAFAの部長に転職した僕が20代で学んだ思考法』、『自分の強みを引き出す4分割ノート術』、『4時間のエクセル仕事は20秒で終わる』がある。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	40歳でGAFAの部長に転職した僕が20代で学んだ思考法	寺澤伸洋/著	KADOKAWA	上司から部下への知恵の伝達は過去から未来へと、連続と続いていくもの。本書では上司と部下による温かい会話調でストーリーが進み、ロジカルシンキングやビジネス思考に易しく触れることができます。若い人の学びにつながるだけでなく、若い人を育てる側も理想の上司像に出会える1冊です。
2	GAFA部長が教える自分の強みを引き出す4分割ノート術 「最高の仕事領域」を見つけよう!	寺澤伸洋/著	世界文化社	自分の強みや自信は過去の自分の経験から作り上げられていくもの。本書は独自のノートを作成することで自分の好き/得意なことをあぶりだし、それを自分が輝ける「最高の仕事領域」として、将来的にそこに至るための考え方を説いています。今の仕事に合わせて、我慢している人にぜひ読んでほしい1冊です。
3	4時間のエクセル仕事は20秒で終わる	寺澤伸洋/著	ダイヤモンド社	「6時間で人生を変えるマクロ講座」の書籍版。同じエクセル仕事でも、マクロを知っているか否かで業務効率は何倍も違います。本書は難しい専門用語などを一切排除した実践的な入門書。今からマクロを学び、未来の自分の仕事を大きく好転させるために、初学者や過去に学びを挫折した人にぜひ手に取ってほしい1冊です。
4	チーズはどこへ消えた?	スペンサー・ジョンソン/著 門田美鈴/訳	扶桑社	どんな時代も、未来を変えていく人物は、現状からの変化を恐れない人です。本書はある日突然消えてしまったチーズに対する主人公たちの思考・行動を通じて、我々のような「普通の人」を「変化を恐れない勇者」に変えてくれる1冊です。実際に僕はこの本に背中を押されて外資系企業に転職し、人生が変わりました。
5	労働2.0 やりたいこととして、食べていく	中田敦彦/著	PHP研究所	現在、終身雇用の時代は終わり、働き方が大きく変わりつつあります。本書は著者の経験から「会社に雇われることにとらわれず、自分だけの働き方を創出していくべき」と新しい生き方を提唱しています。働くとは何か、稼ぐとは何か、自分の可能性はどこにあるのか。自分らしく生きていきたい人に手に取ってほしい1冊です。

選者紹介

読書猿 (どくしょざる)

ブログ「読書猿 Classic: between/beyond readers」主宰。自分自身の苦手克服と学びの共有を兼ねて、1997年からインターネットでの発信(メルマガ)を開始。2008年にブログ「読書猿Classic」を開設。ギリシア時代の古典から最新の論文、個人のTwitterの投稿まで、先人たちが残してきたありとあらゆる知を「独学者の工具箱」「語学の工具箱」「探しの工具箱」などカテゴリごとにまとめ、独自の視点で紹介し、人気を博す。現在も昼間はいち組織人として働きながら、朝夕の通勤時間と土日を利用して独学に励んでいる。

選者紹介

ドミニク・チェン

1981年生まれ。博士(学際情報学)。NTT InterCommunication Center[ICC]研究員、株式会社ディジタル共同創業者を経て、現在は早稲田大学文化構想学部准教授。テクノロジーと人間、そして自然存在の関係性を研究している。主な著書に『フリーカルチャーをつくるためのガイドブック』、『未来をつくる言葉』(第3回八重洲本大賞受賞)、最新刊に『コモンズとしての日本文学』など多数。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	『アイデア大全』	読書猿/著	フォレスト出版	この中で「人が忘れたものや忘れたいものを、覚えておき/思い出し、必要な掘り起して、今あるものとは別の可能性を示すこと」と人文知の任務を定義しました。この本は、そんな人文知の方法で作った新しい考えをつくる本です。
2	問題解決大全 ビジネスや人生のハードルを乗り越える37のツール	読書猿/著	フォレスト出版	今ある文物も制度も知識もすべて先人が作り出し継承してきたもの。つまり過去の問題解決者がつくり出した(未来)に私達は生きています。その中から、次の未来を作るための知恵を抜き出しまとめたのがこの本です。
3	独学大全 絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための55の技法	読書猿/著	ダイヤモンド社	知の歴史を紐解くと、多くの独学者に出会います。彼らは満足いく条件も機会も与えられないまま、それでも知ること、学ぶことを諦められなかった人々です。私達もどうすれば彼らの列に加われるか、次の人たちに手渡していけるかについて書いてある本です。
4	『せんせいのお人形』 1~3	藤のよう/著	KADOKAWA	人はなぜ学ぶのか、そして学んだ先に何があるのか。これらの問いにこれほどストレートに答えた作品を他に知りません。
5	『思想のドラマトウルギー』	林達夫/著 久野収/著	平凡社	知の先達二人による濃厚な対話。林達夫の眼差しは文献のみならず、ヴェネチアの橋や建物を地下で支える何億本ものコルタルを塗られた木杭にまで注がれる。知的営為とはこのように行われ受け継がれていくのだと分かる一冊です。

No.	書名	著者	出版社	コメント
21編の日本文学を読み込み、応募する本を刊行しました。 関連する文学作品や科学書の他、ここ2年ほど発酵文学研究会で読み込んでいる本、そして自著や共著も選書しました。 文学から科学、文化と社会、そして洋の東西も超えて、すべてがつながる世界の複雑さをお楽しみください。				
1	コモンズとしての日本近代文学	ドミニク・チェン/著	ドミニク・チェン/著	「日本の近代文学は私たちの共有財産(コモンズ)である!」とドミニクさんが叫びながらまとめた「一人文学全集」。漱石や泉鏡花など21作品が、一味違って読める内容になっています。(「未来をつくる言葉」担当編集者)
2	フリーカルチャーをつくるためのガイドブック	ドミニク・チェン/著	フィルムアート社	
3	未来をつくる言葉 わかりあえなさをつなぐために	ドミニク・チェン/著	新潮社	「ぬか床、好きだからロボットにしました!」と聞いたときは驚きました(笑)。デジタル表現の飽くなき追究に走るドミニクさんの「今」を凝縮して「未来」につなぐ一冊です。<第3回八重洲本大賞受賞>(担当編集者)
4	謎床	松岡正剛/著 ドミニク・チェン/著	晶文社	
5	関西弁で読む遠野物語	柳田国男/著 畑中章宏/訳 スケラッコ/絵	エクスナレッジ	
6	死者の民主主義	畑中章宏/著	トランスビュー	
7	わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために その思想、実践、技術	渡邊淳司/監修・編者 ドミニク・チェン/監修・編者	ビー・エヌ・エヌ新社	
8	今和次郎 思い出の品の整理学	今和次郎/著	平凡社	
9	笛吹川	深沢七郎/(著)	講談社	
10	パサージュ論 1~5	ヴァルター・ベンヤミン/著 今村仁司/他訳	岩波書店	
11	霧の抵抗 中谷美二子展	中谷美二子/(作)	フィルムアート社	
12	作って動かすALife 実装を通した人工生命モデル理論入門	岡崎起/著 池上高志/著 ドミニク・チェン/著	オライリー・ジャパン	
13	中谷宇吉郎の森羅万象帖		LIXIL出版	
14	世界文学の21世紀	都甲幸治/著	Pヴァイン	
15	すごい論語	安田登/著	ミシマ社	
16	メタファーとしての発酵	Sandor Ellix Katz/著 ドミニク・チェン/監修	オライリー・ジャパン	
17	発酵の技法 世界の発酵食品と発酵文化の探求	Sandor Ellix Katz/著 水原文/訳	オライリー・ジャパン	
18	発酵文化人類学 微生物から見た社会のカタチ	小倉ヒラク/(著)	KADOKAWA	
19	だいちょうことばめぐり	朝吹真理子/著 花代/寫真	河出書房新社	
20	荒野の古本屋	森岡賢行/著	小学館	
21	茶経 全訳注	布目潮風/著	講談社	
22	能 650年続いた仕掛けとは	安田登/著	新潮社	「未来をつくる言葉」で能に興味を持った方にお勧めしたい一冊。ドミニクさんの能のお師匠のご著作です。能がなぜ650年も続いたのか、それはやっぱり魅力と効果があったからなのです!

選者紹介

七尾 与史 (ななお よし)

一九六九年、静岡県浜松市生まれ。第8回『このミステリーがすごい！』大賞で最終選考に残った『死亡フラグが立ちました！』で二〇一〇年にデビュー。『DS刑事』シリーズや『山手線探偵』シリーズ、『バリ3探偵圏内ちゃん』シリーズなど著書多数。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	震雷の人	千葉ともこ/著	文藝春秋	社絶な死者数を叩き出した唐の安史の乱を舞台とした歴史、そして武俠小説でもある。唐時代の人々の生活、風景、空気がひしひしと伝わってくる。随所で個人や軍同士の戦闘を迫力ある筆致で描ききった第27回松本清張賞受賞作。壮大な歴史の一幕をここまで読ませる手腕は新人離れしています。
2	マルチの子	西尾潤/著	徳間書店	第2回大藪春彦新人賞を受賞した西尾潤氏の受賞後第1作。タイトル通り、マルチ商法にはまっていく人間の乱高下する生き様を描いています。妙にリアルに感じてしまうのは作者自身がかつてマルチ商法にハマって地獄を見た経験の持ち主だからです。リアルとスリリングが同居した早くも一皮剥けた著者の手腕が垣間見られる1作。
3	元彼の遺言状	新川帆立/著	宝島社	本年度第19回このミステリーがすごい大賞作品。「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」という遺言状から遺産が欲しい依頼人を犯人に仕立てる弁護士という設定からして発想がぶっこんでる。東大卒の弁護士という肩書きを持つ著者だけに法律解釈は厳密だが、ミステリはダイナミックに展開していく今年を代表するベストセラー。
4	東京プレデターズ チャンネル登録お願いします！	七尾与史/著	角川春樹事務所	YouTuberでもある著者が動画配信者を主人公にしたミステリ。再生数を稼ぐためなら命を賭ける若手配信グループが心霊スポットで起きた殺人という超絶オカルト未解決事件に挑む。ミステリとしてもさることながら動画配信のディテールや成功の秘訣などこれからYoutubeを始める人のノウハウ本としても充実
5	すずらん通りベルサイユ書房	七尾与史/著	光文社	神保町古書店街の書店を舞台にしたミステリなのだけど、連続殺人鬼が出てくるわ、書店を狙ったテロ事件は起こるわで書店ミステリとは思えないハードな展開になっています。謎解きやミステリ部分も多くて命からがらで推理をしなければならない書店員たちの奮闘を描いています。

選者紹介

名和 高司 (なわ たかし)

一橋大学ビジネススクール客員教授。東京大学法学部、ハーバード・ビジネス・スクール卒。三菱商事を経て、マッキンゼーで約20年間勤務。2010年より現職。デンソー、ファーストリテイリング、味の素、SOMPOホールディングスなどの社外取締役、ポストン・コンサルティング・グループ、アクセンチュア、インターブランドなどのシニアアドバイザーを歴任。2014年より「CSVフォーラム」を主催。近著に『稲盛と永守』など。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	現代の経営 上・下 (ドラッカー名著集)	P. F. ドラッカー/著 上田啓生/訳	ダイヤモンド社	経営論の原典。企業のパーパスは顧客の創造であり、企業活動の本質はマーケティングとイノベーションだと論じる。そして経営者が哲学を持つことの重要性を説く。渋沢栄一の「論語と算盤」やマイケル・サンデルの「正義論」にも通底している。半世紀以上経った今なお、未来に向けた珠玉のメッセージが詰まっている。
2	生き方 人間として一番大切なこと	稲盛和夫/著	サンマーク出版	現代日本を代表する経営者の哲学を凝縮した世界的名著。「利他の心」と「宇宙の流れと調和すること」の大切さを説き、企業人としての生き方、さらには、生きることそのものの意味、人間の尊厳について読み手に深く語り掛ける。先の見えない今こそ、本書を通じて自らの志(パーパス)を問い直してみたい。
3	日本文化の核心	松岡正剛/著	講談社	「編集工学」という手法で神羅万象を読み解く松岡正剛。本書は、その松岡の日本文化論の最新版である。ヤマト時代から現代に至るまで、「一途で多様」を貫いてきた日本。変化が常態化する中で、ぶれない志(一途)を軸に、ダイバーシティ(多様)を包摂していく「ジャパン・スタイル」は、未来を拓く原動力となるはずだ。
4	新板 動的平衡 新板 動的平衡2	福岡伸一/著	小学館	生きることの本質に迫る「福岡生命論」の決定版。生命は絶え間ない流れ(時間)の中で、大きな生態系(空間)の一部として存在していることを、分子生物論の世界から紐解いていく。人間、そしてその集合体としての企業も同様に、そのような時空間の中で、動的かつ調和的に生きる志を取り戻す必要があることに気づかされる。
5	パーパス経営	名和高司/著	東洋経済新報社	ポストコロナを見据えた新日本型経営モデルを提言する話題書。破綻しつつある資本主義の先に、「志本主義」の時代が来ると説く。内外のパーパス理論と実例を紐解きながら、日本人と日本企業は、志と和を大切にしてきた伝統的な価値観を磨きなおして世界に発信することで、共感に溢れた未来に先導することができると唱える。

選者紹介

西岡 忋成 (にしおか いっせい)

現役東大生

1996年生まれ。偏差値35から東大を目指すも、現役一浪と、2年連続で不合格。崖っぷちの状況で開発した「思考法」「読書術」「作文術」で偏差値70、東大模試で全国4位になり、東大合格を果たす。

そのノウハウを全国の学生や学校の教師たちに伝えるため、2020年に株式会社カルペ・ディエムを設立。全国6つの高校で高校生に思考法・勉強法を教えているほか、教師には指導法のコンサルティングを行っている。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	東大式目標達成思考 「努力がすべて」という思い込みを捨て、「目標必達」をかなえる手帳術	相生昌悟／著	日本能率協会マネジメントセンター	「戦略的に努力するためにはどうすればいいか」がまとまった1冊です。僕は、「努力すれば報われる」とばかり考えて、つい精神論に逃げてしまふことがあると思います。そうではなく、しっかりと自分の努力を未来の結果に繋げる思考をしなければならぬ。そのためにすごく参考になる1冊です。
2	「学校」をつくり直す	吉野一徳／著	河出書房新社	教育とは。学校とは。それが問い直されるこれからの時代において、吉野さんの本はすごく参考になります。「求められる教育」をしっかりと定義し、そのために足りないものは何なのかを考えていくこの本は非常に読みやすく、どの世代の人も読むべき価値のあるものだと思います！
3	ヘンテコノミクス 行動経済学まんが	佐藤雅彦／原作 菅俊一／原画 高橋秀明／画	マガジンハウス	人間は合理的にのみ行動するわけではありません。つついとおかしな行動も取ってしまいます。そんな、一見ヘンテコな行動を研究する学問を「行動経済学」と言います。この本は、行動経済学の初歩が漫画でわかる、という本です。みなさんの周りのヘンテコな行動も、この本を読めば理由がわかるかもしれません！（笑）
4	insight いまの自分を正しく知り、仕事と人生を劇的に変える自己認識の力	ターシャ・ユーリック／著 中竹竜二／監訳 樋口武志／訳	英治出版	自己認知で難しいですよね。自分のことは自分が一番わかっている……なんて言っても、実はそんなことはありません。この本には、しっかりと自己を認知するためにすべきことが書かれています。自分でもわかっていない自分の姿を知ることができるようになれば、きっとそれは未来に何らかの形でつながるはずです。
5	「考える技術」と「地頭力」がいっきに身につく東大思考	西岡忋成／著	東洋経済新報社	頭がいいとはどういうことなのか、ということと向き合って書きました。「地頭はよくならない」と諦めてしまう前に、「頭を使う」テクニックを身につけてほしい、そんな未来に対する願いを込めて書いたので、みなさんぜひご覧ください！

選者紹介

額賀 澤 (ぬかが みお)

1990年茨城県生まれ。日本大学芸術学部文芸学科卒。2015年に『屋上のウインドノーツ』で第22回松本清張賞を、『ヒトリコ』で第16回小学館文庫小説賞を受賞しデビュー。2016年に『タスキメシ』が第62回青少年読書感想文全国コンクール高等学校部門課題図書に。既刊に『さよならクリームソーダ』『拝啓、本が売れません』『風に恋う』『競歩王』『できない男』『沖晴くんの涙を殺して』『転職の魔王様』など。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	また次の春へ	重松清／著	文藝春秋	毎年、3月11日に読むと決めている本です。「喪失」とは常に遭われた側に降り注ぎます。そんな「喪失」が日常と溶け合っていく過程を描いた短編集です。いつか必ず自分にも訪れる「喪失」を、そのときどう受け止めるか。3月11日に考えます。
2	熱源	川越宗一／著	文藝春秋	アイヌ、樺太（サハリン）、ナロードニキ、マルクス主義、ポーランド独立……歴史の授業で必死に勉強したつもりだったけれど、結局何も知らないままだったんだと本を閉じてから思いました。教科書の行間に埋もれて見えなくなってしまう人が大勢いたこと、その一人ひとりに壮大な物語があったことを思い知らせてくれた一冊です。
3	横道世之介 続	吉田修一／著	中央公論新社	どれだけ貧乏くじを引こうと、どれだけ損な役回りを押しつけられようと、それでも「善良であること」に憧れを抱いて生きていこう。読了後にそう強く思わせてくれた本です。「10年後、20年後がどんな世界であってほしいか」と問われたら、私は「横道世之介が愛される世界であってほしい」と答えるでしょう。
4	ぼくがきみを殺すまで	あさのあつこ／著	朝日新聞出版	戦争はある日突然はじまるわけではない。目に見えないウイルスが私達の日常を奪ったように、戦争の種は少しずつ社会を侵食し、芽吹き、花を咲かせてしまう。その種は今、すでに自分の側で芽を出しているかもしれない。令和を生きる私達が受け止めるべき「恐怖」を提示してくれる本です。
5	焼餃子	蜂須賀敬明／著	双葉社	太平洋戦争末期の日本。とある男が餃子の女神と出会い、「究極の餃子」を探す旅に出る。争いばかりのこの世界で、餃子が人々を幸せにすると信じて――。国を超え、時代を超え、焼餃子で人々は繋がっていく。もちろんその中には私もあなたもいる。*必ず餃子を用意してから読んでください。
6	沖晴くんの涙を殺して	額賀澤／著	双葉社	震災を生き延びた少年の再生の第一歩と、余命宣告を受けた女性の最後の日々が、海辺の街で交差する物語です。二人が一緒に過ごした時間はとても短いですが、得たものと同じ量のものを失いながら生きていくのが私達の暮らしなのだと思います。

選者紹介

はらだ みずき

千葉県生まれ。二〇〇六年『サッカーボーイズ再会のグラウンド』でデビュー。『サッカーボーイズ・シリーズ』のほかに、『帰宅部ボーイズ』『最近、空を見上げていない』『銀座の紙ひこうき』『やがて訪れる春のために』など多くの著書がある。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	孤高の人 上・下	新田次郎	新潮社	「単独行」という独自の登山スタイルを昭和初期に生み出した主人公・加藤文太郎。小説という表現方法で彼の生き様を見事によみがえらせ、何時の世にも、人とはちがう鮮烈な生き方の選択があることを教えてくれる作品。
2	新編 単独行	加藤文太郎/著	山と溪谷社	登山家・加藤文太郎の遺稿集。「孤高の人」と併せて読みたい1冊。小説とは異なる加藤文太郎と出会うことができ、彼自身の言葉、単独行者たらんとする者へのエールが胸に突き刺さる。「単独行」とは、登山に限らず、ひとつの生き方として受けとめることができました。
3	遠野物語 山の人生	柳田國男/著	岩波書店	山のほうの家で暮らすようになった私にとって、より身近になった作品。時代は過ぎても、同じ地平に行きた人々の言い伝えに触れることは、戦慄を覚えるよりも、むしろ今を生きる上での常識から読者を解き放つかもしれない。
4	海が見える家	はらだみずき/著	小学館	会社を辞め、田舎で自給自足の生活を目指そうとする青年が主人公。この作品を書くことによって、人生とは、幸せとはなにかを見つめ直し、私自身が変わることができました。この春から田舎暮らしを実際にはじめたのもそのひとつ。シリーズ第3弾「海が見える家 逆風」が9月に出版されました。
5	やがて訪れる春のために	はらだみずき/著	新潮社	バラが登場する小説を書くために庭でバラを育てはじめ、いつしか私はガーデニングにはまっていました。その後、庭小説を書きたいと思い実現したのは、認知症になった祖母の「記憶の庭。をとりもどそうとする孫娘の物語。実際に認知症となった義母との交流が作品にリアリティーを与えてくれた気がしています。

選者紹介

藤本 敦也 (ふじもと あつや)

SF思考 編著者 シンクタンク勤務。

東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程修了。ESADEビジネススクール(バルセロナ)MBA修了。技術・マクロトレンドと人・社会の変容を織り交ぜた、未来社会像創出を多数実施。ブレインテックなど先端技術の新規事業から、ペットビジネス、シニアビジネスのコンサルティングもユーザーを強く意識し展開。株式会社ワイズポケットの創業メンバーでもある。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	S F 思考 ビジネスと自分の未来を考えるスキル	藤本敦也/編著 宮本道人/編著 関根秀真/編著	ダイヤモンド社	「自分の未来は、自分で描きたい」新しいことができなくて悩んでいた頃、SF研究者達と出会い、既定路線じゃない未来をつくり始めました。自分達が体験したSF思考のエッセンスに加え、新しい言葉とキャラで非連続かつリアリティのある未来をつくる手法をまとめた本です。2070年を描いた5つのSF短編小説も必読!
2	13番目の人類 (22号 フロネシス)	三菱総合研究所/編著 小宮山宏/編集顧問	ダイヤモンド社	「人間拡張技術は、我々をどう変えるんだろう?」素朴な疑問を、名棋士である羽生善治さん、解剖学者の養老孟司さん、「攻殻機動隊」監督の押井守さん、アーティストの長谷川愛さんなど、人間拡張のバイオニアとの対談を通じて探った1冊です。技術がもたらす新しい未来を知りたい方は是非!
3	7SEEDS 1~35	田村由美/著	小学館	16歳のナツは目覚めると、荒れ狂う海の上にいた。生きるための冒険が始まる。それは人類の絶滅を予測した政府による「7SEEDS」プロジェクトであった。20代の頃に読み、遠くて近い未来に思いをはせ、自分は何をして死んでいきたいのかを真剣に考えるきっかけになった作品です。
4	アドルフに告ぐ 新装版 1~4	手塚治虫/著	文藝春秋	第2次世界大戦を背景に3人のアドルフの運命を描いた、手塚治虫の代表作。バルセロナ留学時、第2次世界大戦の話を前提として会話していたクラスメイト達についていくために読んだ作品です。グローバルに活躍したい人は必読分野。
5	イノベーションのジレンマ 技術革新が巨大企業を減ぼすとき	クレイトン・クリステンセン/著 玉田俊平太/監修 伊豆原弓/訳	翔泳社	好調な大企業が、なぜベンチャーに負ける日が来るのか?大企業の構造的課題を「破壊的イノベーション」と「持続的イノベーション」から解き明かし、世界のビジネスに衝撃を与えた名著。新規事業に取り組み、壁にぶつかった時に出会い得心した本。もっと早くこの本に出会いたかった……

選者紹介

細谷 功 (ほそや いさお)

ビジネスコンサルタント・著述家株式会社東芝を経て、アーンスト&ヤング、キャップジェミニ等の米仏日系コンサルティング会社にて業務改革等のコンサルティングに従事。近年は問題解決や思考力に関する講演やセミナーを企業や各種団体、大学等に対して国内外で実施。著書に『地頭力を鍛える 問題解決に活かす「フェルミ推定」』（東洋経済新報社）『具体と抽象』（dZERO）などがある。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	ホモ・デウス テクノロジーとサビエンスの未来 上・下	ユヴァル・ノア・ハラリ／著 柴田裕之／訳	河出書房新社	世界的なベストセラーであるがあえて本書を挙げるのは、長い歴史のスパンで見た人類のあり方についての示唆が豊富だから。テクノロジーの進化に伴って人類はどうあるべきなのか、その未来は私たちがどういう未来を描きたいかにかかっている。そのための考えるヒントを様々な視点から与えてくれる大作。
2	LIFE 3.0 人工知能時代に人間であるということ	マックス・テグマーク／(著) 水谷淳／訳	紀伊國屋書店	AIの発展後の世界はどうなるのか？著者の考える「12のシナリオ」はAIと人間の共存シナリオを考える上での道しるべとなる。短期的なAIの活用の延長線上にどのような未来が待っているのか、理論物理学者が人類ではなく宇宙の歴史という超長期スパンで描く
3	テクノロジーの世界経済史 ビル・ゲイツのパラドックス	カール・B・フレイ／著 村井章子／訳 大野一／訳	日経BP	テクノロジーと人間の関係をマクロ的視点とミクロの豊富な事例で描く。大停滞→大分岐→大平等→大反転→未来というマクロの構造変化は実際の「未来」からはどう描き直されるのか？そんなことを想像しながら読むことで様々な選択肢が想像できるのではないだろうか。
4	フラットランド たくさんの次元のものごと	エドウィン・アボット・アボット／著 竹内薫／訳	講談社	どんなに時代が変わろうか色褪せない普遍性を持った、不朽かつユニークな名著。見えている人と見えていない人との関係を見事に表現し、人間のコミュニケーションとその背景となる知性の構造を鮮やかに描く。この本の視点に立った見えてしまった未来の人たちからまだ見えていない現代の人たちはどう見えるのだろうか？
5	アナロジー思考 「構造」と「関係性」を見抜く	細谷功／著	東洋経済新報社	不連続に見える未来も抽象度を上げて考えれば連続的に変化している。テクノロジーが急激に進化しても人間の認知メカニズムはそう簡単には変わらないだろう。そうなる未来は人間が持つ認知のスキームの中で連続的に変化することになるだろう。歴史からのアナロジーは常に未来を読むための協力的なツールとなる

選者紹介

三谷 宏治 (みたに こうじ)

1964年大阪生まれ、福井で育つ。東京大学 理学部物理学科卒業後、ポスドク コンサルティング グループ(BCG)、アクセンチュアで19年半、経営コンサルタントとして働く。92年 INSEAD MBA修了。2003年から06年 アクセンチュア 戦略グループ統括。2006年からは子ども・親・教員向けの教育活動に注力。現在は大学教授、著述家、講義・講演者として全国をとりまわる。K.I.T.(金沢工業大学)虎ノ門大学院 教授の他、早稲田大学ビジネススクール・女子栄養大学 客員教授。放課後NPO アフタースクール・NPO 法人 3keys 理事を務める。『経営戦略全史』(2013)はビジネス書2冠を獲得。永平寺ふるさと大使。3人娘の父。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	ORIGINALS 誰もが「人と違うこと」ができる時代	アダム・グラント	三笠書房	スタートアップで成功を掴むのは、勇敢なファーストベンギン（本当はそんなベンギンはいないが）でも、ジョブズのような超人でもなかった。「GIVE&TAKE」のアダム・グラントが自身の大失敗から学んだ、現代におけるオリジナリティの本質とは！あなたは如何に「オリジナリティ」のある人間になりますか。答えはSFに！
2	火星の人 上・下	アンディ・ウィアー／著 小野田和子／訳	早川書房	無料のネット小説としてスタートし、出版され大ヒットとなった『火星の人』。「オデッセイ」として映画化もされました。ときは2035年。火星での超リアルなサバイバルストーリーです。主人公フートニーが直面する圧倒的困難を打ち破ったのは、彼のハカ力と行動力、そしてユーモアでした。これぞ人類の価値！
3	おうむの夢と操り人形-年刊日本SF傑作選所収-	藤井大洋／著	東京創元社	近未来SFの旗手、藤井大洋。日朝米をまたく国家間の電子戦を描いた『オービタル・クラウド』はSF大賞を受賞しました。この小品では「今そこにある」ロボットとAIの未来が描かれます。（ペッパー類似の）コミュニケーションロボットパドルの意外な使い途に始まり、人間にとってのロボットやAIの真の価値が明らかに！
4	青い星まで飛んでいけ	小川一水／著	早川書房	舞台は銀河の果て、人類が減ってから30万年後の世界です。人類の末裔を名乗る超高度自律型AIエクス。彼は2000隻の宇宙船団を構成し、地球外知性との接触・交流に挑み続けます。それが人類に与えられたミッションだったから。それはもう苦勞の連続。でもあるとき彼はある種族の発展と滅びを見守ります。そこで明らかになるヒトの本質とは！
5	戦略読書〔増補版〕	三谷宏治／著	日経BP日本経済新聞出版本部	ヒトは読んだものから出ています。読書こそは、ヒトの脳を鍛え、人と人との間の橋を架けてくれるもの。読まなければ孤独に沈みます。でもただヒトと同じものを読むだけでは、同じことしか言えなくなります。読む本はうまく分散・バランスさせましょう。特にSFはダイジです(笑)。そして「オリジナリティ」ある存在へ！

選者紹介

宮本 道人 (みやもと どうじん)

1989年生まれ、博士(理学、東京大学)。
 科学文化作家、応用文学者。
 筑波大学システム情報系研究員、株式会社ゼロアイデア代表取締役、変人類学研究所スーパーバイザー。
 近刊編著に『SF思考』『SFプロトタイピング』『プレイヤーはどこへ行くのか』。ほかAI学会誌、VR学会誌での連載、『ユリイカ』『現代思想』『実験医学』への寄稿など、様々な分野で執筆。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	SFプロトタイピング SFからイノベーションを生み出す新戦略	宮本道人監修・編著、難波優輝、大澤博隆編著	早川書房	ありきたりでない「未来像」って、どうやったら想像できるんだろう？……その答えの一つが「SF」だ。実際に我々の生きている「今」も、過去のSFのイメージーションから生まれている部分が多々ある。未来へのヒントは、想像のなかにあるのだ。
2	東日本大震災後文学論	限界研/編 飯田一史/編著 杉田俊介/編著 藤井義允/編著 藤田直哉/編著 海老原豊/〔ほか〕著	南雲堂	311を受けてどのような文学が書かれたのかが論じられた評論集。災害の記憶というものは時間が経つにつれ風化してしまう。その時代に何が書かれ、それはどのように読まれたのか。本書のような試みを通し、災害と文学の関係は継続的に捉え直されるべきだろう。
3	限界芸術論	鶴見俊輔/著	筑摩書房	芸術は、どんなものでも、見る側が見方を磨けば芸術として見ることができる、ということを見せてくれる本。創作におけるプロとアマチュアの境がどんどん薄れていくなか、本書が提示する観点はこれからますます重要になってゆくだろう。
4	ゲド戦記 1~6	アーシュラ・K. ル＝グウィン/作 清水真砂子/訳	岩波書店	魔法が存在する世界を舞台にしたファンタジー。巻を重ねることに、前作で背景化されていた物の見方に潜む問題点があぶり出されてゆく構成には圧倒される。ファンタジーの在り方自体を問い直す本書の姿勢は、未来へと繋いでいきたいもの一つだ。
5	哲学の女王たち もうひとつの思想史入門	レベッカ・バクストン/編 リサ・ホワイティング/編 向井和美/訳	晶文社	歴史に埋もれていた女性哲学者たちに光を当てた良書。一つのジャンルのなかでこれまで正当に評価されてこなかったマイノリティの活躍を紹介しようという考えは、他の様々なジャンルでも見習うべきであり、より良い未来をつくる重要なキーである。

選者紹介

守屋 淳 (もりや あつし)

1965年 東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。作家として『孫子』『論語』『韓非子』『老子』『莊子』などの中国古典や、渋沢栄一などの近代の実業家についての著作を刊行するかたわら、グロービス経営大学院アルumnaisスクールにおいて教鞭をとる。2018年4～9月トント大学倫理研究センター客員研究員。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	歴史は「べき乗則」で動く 種の絶滅から戦争までを読み解く複雑系科学	マーク・ブキャナン/著 水谷淳/訳	早川書房	中国史で言えば「榮枯盛衰」「治乱興亡」といった言葉に端的なように、歴史をパターン認識で考えることは古来、洋の東西を問わず行われてきた。本書はそこに「べき乗則」という知見を持ち込み、森林火災から戦争の規模まで、非常に興味深い共通性を見いだしていく。
2	超予測力 不確実な時代の先を読む10カ条	フィリップ・E・テトロック/著 ダン・ガードナー/著 土方奈美/訳	早川書房	日本でも、政治や経済の評論家の予測は、後から考えると大外れのモノが多いが、なぜそうになってしまうのか。逆に、未来を人より正確に予測できる人はいないのか——そんな実験の結果から生まれた本書、現代のあふれる情報をいかに扱えばよいかを考える上での洞察に満ちている。
3	見抜く力 リーダーは本質を見極めよ	酒巻久/著	朝日新聞出版	「スマホ」のいわばコンセプトを作ったのがこの本の著者・酒巻久キヤノン電子会長。酒巻さんの開発した「Canon NAVI」(1987)に惚れ込んだジョブズが、キヤノンに合併を申し込んだ結果できたのが「NEXT」コンピューター。それが発展して今のスマホに至るのだ。では、なぜそんな昔に時代を先駆けた商品を生み出したのか。この本にはその秘密の一端が解き明かされている。
4	渋沢栄一 日本のインフラを創った民間経済の巨人	木村昌人/編	筑摩書房	渋沢栄一は、江戸から明治への大転換という先が見えない時代に、まさしく日本の未来を作った巨人。ただし、渋沢栄一の生涯は、後半生が複雑すぎてどの伝記もお茶を濁したような記述で終わっているような場合がほとんど。本書は、栄一研究の第一人者が、まさしく近代日本を作り上げた後半生までを丁寧に描ききっている。
5	金融の本領 長期投資の精神と、価値ある人生について	澤上篤人/著	中央経済社	日本の長期投資の第一人者である澤上篤人さんが、ご自身の個人史に重ね合わせつつ、金融の歴史やその意義を語っている。現状の異常な金余り状態の先を見据える上で、「なぜ金融は今のようになつたのか」という経緯を知ることは自分の財産を守る上で欠かせない見識を提供してくれるだろう。

選者紹介

谷津 矢車 (やつ やぐるま)

1986年東京生まれ。駒澤大学文学部歴史学科卒。2012年、第18回歴史群像大賞優秀賞受賞、13年、『洛中洛外画狂伝』(学研)でデビュー。14年『鳶屋』(学研)が話題になる。18年『おもちゃ絵芳藤』(文藝春秋)で第7回歴史時代作家クラブ賞作品賞受賞。20年『廉太郎ノオト』(中央公論新社)が第66回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書(高等学校の部)に選出。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	ルックバック	藤本タツキ/著	集英社	自分にはないものに惹かれあい切磋琢磨し、一人はプロの漫画家に、もう一人は美大生になったふたりの少女の物語。しかし、そんな最強の二人の前には理不尽極まりない現実が……。わたしたち作り手は、大なり小なり、本作の主人公藤野のように、誰かからなにかをつないでいるのかもしれない。
2	語り芸パースペクティブ かたる、はなす、よむ、うなる	玉川奈々福/編著	晶文社	浪曲師である著者が、語り芸の名人に話を聞く講演録。様々な時代に生まれ現代に命脈を保っている語り芸の魅力を平易に知ることのできるリベラルアーツ書籍としても素晴らしいが、本書に採録されている一流の人間によるさりげない一言の切れ味たるや。普段接することのできない“名人”の凄みにきつとあなたは戦慄する。
3	蓑虫放浪	望月昭秀/文 田附勝/写真	国書刊行会	蓑虫山人をご存知でしょうか。いや、ご存知なくて当然です。幕末から明治にかけて日本中を旅し、今で言う縄文土器や土偶を愛し、今で言うyoutuber的な生き方をしていた漂泊の人です。そんな愛すべき奇人・蓑虫山人の足跡を、愛と共感で以て活写するホッコリ書籍。こういう人の存在が語り継がれる世の中であって欲しいと願いつつ。
4	翡翠色の海へうたう	深沢潮/著	KADOKAWA	従軍慰安婦を小説にしようとした小説家志望者の葛藤を描く小説。本書で繰り返し描かれるのは、ある出来事を「語る」ことの難しさと罪。未来に何かをつなぐことは大変難しく、傲慢なことでもある。それでも語るのか。その覚悟はあるのか。本書の問いかけは、「つなぐ」ことの表と裏を教えてくれる。
5	絵ことば又兵衛	谷津矢車/著	文藝春秋	拙作より。本作主人公は岩佐又兵衛という江戸期の絵師です。荒木村重の子として生まれ、大名仕事を請ける絵師になるまでを描いた小説なのですが、本作の最後で彼は浄瑠璃の『山中常磐』を絵にすることで、先行する創作物を未来に繋いだのです。そして、本作を書いたわたしも、又兵衛と同じことをしたのかも。

選者紹介

矢部 太郎 (やべ たろう)

1977年生まれ。芸人・マンガ家。97年に「カラテカ」を結成。芸人としてだけでなく俳優としても活躍している。デビュー作『大家さんと僕』で第22回手塚治虫文化賞短編賞を受賞。絵本・紙芝居作家の父をモデルにした最新刊『ぼくのお父さん』は10万部超のヒットとなっている。その他の著書に『大家さんと僕 これから』『大家さんと僕』と僕』(共著)、挿絵を担当した『星の王子さま』などがある。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	ゲナポッポ	クリハラタカシ/著	白泉社	たくさん考えすぎた脳をふにやふにやに融解させてくれる本です。
2	これが好きなのよ 長新太マンガ集	長新太/著	亜紀書房	
3	ワイトゲンシュタインの愛人	デイヴィッド・マークソン/著 木原善彦/訳	国書刊行会	地球最後の一人となった女性がタイプライターに思ったことを打ち続ける。ただそれだけ。究極の読書のための読書というような豊かな体験ができました。
4	ナンシー いいね！が欲しくてたまらない私たちの日々	オリヴィア・ジェイムス/著 椎名ゆかり/訳	DU BOOKS	戦前から続くアメリカのマンガが六代目の作者に女性作家が就任して、主人公ナンシーがスマホ、SNS中毒の少女に、つまり私たちに。
5	教室の片隅で青春がはじまる	谷口菜津子/著	KADOKAWA	
6	かわいい闇	マリー・ボムビュイ/作 ファビアン・ヴェルマン/作 ケラスコエット/画 原正人/訳	河出書房新社	
7	冒険手帳	谷口尚規/著 石川球太/画	光文社	
8	フェルメール	植本一子/写真と文	ブルーシーブ	今できないことがたくさん詰まっています。
9	THIS ONE SUMMER	マリコ・タマキ/作 ジリアン・タマキ/画 三辺律子/訳	岩波書店	
10	かしこくて勇氣ある子ども	山本美希/著	リイド社	
11	ジェーンとキツネとわたし	イザベル・アルスノー/絵 ファニー・ブリット/文 河野万里子/訳	西村書店	
12	コトリコトコ	おくやまゆか/著	小学館	
13	リボンの男	山崎ナオコ/著	河出書房新社	
14	ペリリューー楽園のゲルニカー 1~11	武田一義/著 平塚征緒/原案協力	白泉社	
15	読んでほしい	おぎすシグレ/著	幻冬舎	
16	かばさん	やべみつりのり/作	こぐま社	僕の父がはじめて描いた絵本です。この絵本がはじめて出版された44年前、お父さんと子どもの絵本は珍しくて売れなかったと父が話していました。
17	大家さんと僕	矢部太郎/著	新潮社	
18	ぼくのお父さん	矢部太郎/著	新潮社	
19	星の王子さま	サン＝テグジュペリ/作 加藤かおり/訳 矢部太郎/絵	ポプラ社	

選者紹介

吉田 篤弘(よしだ あつひろ)

作家

1962年東京都生まれ。小説を執筆するかたわら、クラフト・エヴィング商會名義による著作とデザインの仕事をを行っている。

著書に『つむじ風食堂の夜』『それからはスープのことばかり考えて暮らした』『おやすみ、東京』『流星シネマ』『チョコレート・ガール探偵譚』『月とコーヒー』『ぐっど・いうにんぐ』などがある。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	城	カフカ / (著) 前田 敬作 / 訳	新潮社	『城』を読んだことはありません。ただ、『城』を手に入れて、ときどきページをめくったり、本の重さを感じたりはします。『城』について書かれた論考や、『城』を書いた頃のカフカの評伝は読んでいます。しかし、この本を読むのはまだ先のことでしよう。
2	石川淳随筆集	石川淳 / 著 濑澤龍彦 / 編	平凡社	巧みな日本語の魔術を味わえるだけではなく、「精神のおしゃれ」を学ぶ恰好の書です。ほどよい分量にまとめられているので、お守りのように常に持ち歩くべき一冊。
3	うつくしく、やさしく、おろかなり私の惚れた「江戸」	杉浦日向子 / 著	筑摩書房	これは「江戸」との付き合い方、愛し方を説いた最良の本です。のみならず、じつところ、「江戸」を「人間」に置き換えて読めるのが、またオツなのです。
4	方丈記私記	堀田善衛 / 著	筑摩書房	本を読むことは、過去と現在をつなぐことであるように思います。「方丈記」という一冊の書物を「自分の経験」として「魂に刻みつけて」いく作業——その行程が旅の記録のように記されています。
5	ぐっどいうにんぐ	吉田篤弘 / 文と絵	平凡社	文章を書くことは未来を招き寄せることであるように思います。いま書いたごく短い数行が、未来において、長大な小説に発展しているかもしれません。これは、そんな未来を夢見る短い言葉のつらなりです。

選者紹介

原 ゆたか(はら ゆたか)

選者紹介

原 京子(はら きょうこ)

原ゆたか

児童書作家。熊本県生まれ。代表作の「かいけつゾロリ」シリーズは既刊69巻をかぞえ、来年で35周年を迎える大人気シリーズ。

原京子

児童書作家。東京都生まれ。主な作品に『もりのゆうびんポスト』『ねえ、おはなしきかせて』『はるにあえたよ』など。

共著の「イシシとノシシのスッポコペッコへんてこ話」シリーズ、「にんじやざむらいガムチョコバナナ」シリーズなど夫婦ならではの息のあった作品も必見。

No.	書名	著者	出版社	コメント
1	かいけつゾロリのドラゴンたいじ 2	原ゆたか / さく・え	ポプラ社	かいけつゾロリの第1巻として書いた「ドラゴンたいじ」を、31年目に再びゾロリをその地に立たせてみました。長く続けてきたからこそできる展開やゾロリの成長と懺悔を書いてみたかったからです。もちろん今の小学生に書いたのですが、昔、小学生だった大人の皆さんがどう感じるのかも知りたいところです。
2	脳が読みたくなるストーリーの書き方	リサ・クロン / 著 府川由美恵 / 訳	フィルムアート社	私は絵描きとしてこの業界に入ってきたのでお話を作る事に関して全く自信がありません。その不安を和らげるため、ハリウッドのシナリオの書き方の本をやたら読み漁ります。中でも頼りの一冊がこの本で、人間が理解しうるストーリーの基礎の中に、次の世代を楽しませる未来の作品がひそんでいるはずなのです。
3	もりのゆうびんポスト	原京子 / 作 高橋和枝 / 絵	ポプラ社	電話やLINEで気軽に連絡を取り合うことが当たり前の世の中ですが、字が上手なくてもどんなに短くても手紙は書いてくれた人の気持ちが伝わってきて、時が過ぎても何度でも読み返すことができる嬉しいものだということを伝えられたらと思って書きました。小学校時代の友人の手紙や、もう亡くなった祖父からの手紙は私の宝物です。
4	ふたばあちゃん	マーガレット・ワイルド / 文 ロン・ブルックス / 絵 今村鞆子 / 訳	あすなろ書房	ふたばあちゃんのように、きちんと自分の身の回りの整理をして、生きることの喜びや愛する気持ちをパートナーと共有し「ありがとう」を言い合っこの世から旅立てたらいいなと思います。あとに残る大切な人が未来に向かって元気に生きていってくれるように。
5	百桃太郎	原京子 / 文 原ゆたか / 絵	ポプラ社	桃太郎に出でくる鬼たちを、一方的に悪者と決めつけて成敗するのはどうも納得できず、みんなが楽しく共存できる未来はないかなと考えて作ったお話です。紙の本ならではの、ということがやりたくてパノラマページを入れました。楽しく見て読んでいただくと嬉しいです。